大妻中野高等学校　1年　岩崎 愛珠

日時：3月21日(土) 10:00-15:00

場所：大妻女子大学 千代田キャンパス

●大学校舎 B1F アトリウムほか　入場無料　雨天決行

主催：大妻女子大学
後援：千代田区、大妻コタカ記念会、大妻中学高等学校
千代田区内協力大学：共立女子大学、城西大学、
上智大学、専修大学、東京家政学院大学、二松学舎大学
日本歯科大学、日本大学、法政大学、明治大学
協賛：千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム

大妻さくらフェスティバル 2020

アトリウムステージプログラム

会場：大学校舎地下１階　アトリウム

時間	プログラム	団体
10:00	10:00～10:50	投げ合い・一囃子 ビッグ・バンド演奏	九段小学校 九段囃子の会 九段小学校 九段 Planets
	10:50～10:55	理事長挨拶	大妻学院理事長　伊藤　正直
	10:55～11:00	来賓挨拶	千代田区長　　石川　雅己
11:00	舞台撤収・設営		
	11:10～11:30	英語劇	大妻嵐山中学高等学校　English Drama Club
	11:30～11:50	コーラス	大妻中学高等学校　コーラス部（高校）
	11:50～12:10	競技ダンス	大妻女子大学・法政大学・武蔵野大学　舞踏研究部
12:00	12:10～13:00	休　憩	
	12:20～12:50	千代田学事業報告	ポスターセッション
13:00	13:00～13:20	和太鼓演奏	駐日英国大使館太鼓会　どん BRI
	舞台撤収・設営		
	13:30～13:50	チアリーディング演技	大妻女子大学オールチアリーディング・カンパニー LYNX
	13:50～14:10	創作ダンス	大妻嵐山中学高等学校　ダンス部
14:00	14:10～14:30	フラダンス	大妻女子大学OG　Mauhana Hula Studio
	14:30～14:50	バトントワリング演技	大妻中学高等学校　バトントワリング部
	14:50～15:00	実行委員長　挨拶	大妻さくらフェスティバル実行委員長 井上　美沙子
15:00	閉　会		

令和元年度

地域連携プロジェクト報告会

会場：大学校舎地下１階　ラウンジりょうま

時間	プロジェクト	代表者	所属
10:00			
10:10～10:30	からきだ匠（たくみ）カフェ ～地域がつながる場所～	八城　薫	人間関係学部
10:30～10:50	多摩ＮＴにおける 子どもと中高年の居場所づくり	炭谷　晃男	社会情報学部
10:50～11:10	千代田＆多摩地域 子供自然体験教育プロジェクト	甲野　毅	家政学部
11:00			
11:10～11:30	能登の里海を守る： 地域の活性化と海育普及プロジェクト	細谷　夏実	社会情報学部
11:30～11:50	三番町アダプトフラワーロードの会 との地域美化活動	石井　雅幸	家政学部
11:50～12:10	障害者雇用企業との連携による Ｔボール大会の開催	小川　浩	人間関係学部
12:00			
12:10～12:40	休　憩		
12:40～13:00	体験から学ぶ防災 ～防災と言わない防災を目指して～	堀　洋元	人間関係学部
13:00			
13:00～13:20	大妻囲碁フェスタ －坂の上の街を囲碁で盛り上げる－	川之上　豊	家政学部
13:20～13:40	神保町の出版と書店を元気にする プロジェクト 2019	深水　浩司	教職総合支援センター
13:40～14:00	子どもの育ちを地域で見届ける 「大泉こども食堂」プロジェクト	加藤　悦雄	家政学部
14:00			
14:00～14:20	多摩市における街区公園改修に 関するプロジェクト	松本　暢子	社会情報学部
14:20～14:40	むささび食堂： 食事がつなぐ地域の輪	田中　直子	家政学部

目　次

巻頭あいさつ　2

千代田区長　石川　雅己

大妻学院　理事長／大妻女子大学　学長
伊藤　正直

一般財団法人大妻コタカ記念会　会長
井上小百合

大妻さくらフェスティバル実行委員長／
大妻女子大学地域連携推進センター所長　井上美沙子

「千代田のさくらまつり」に寄せて　5

共立女子大学／共立女子短期大学
学長　川久保　清

城西大学　学長　白幡　晶

上智大学　学長　曄道　佳明

専修大学　学長　佐々木重人

東京家政学院大学　学長　廣江　彰

二松学舎大学　学長　江藤　茂博

日本歯科大学　生命歯学部長　沼部　幸博

日本大学　学長　大塚吉兵衛

法政大学　総長　田中　優子

明治大学　学長　土屋恵一郎

千代田学事業報告　11

大妻女子大学　准教授　高田　馨里

大妻女子大学短期大学部　准教授　富永　暁子

上智大学　教授　川西　諭

東京家政学院大学　教授　酒井　治子

二松学舎大学　専任講師　谷島　貫太

日本大学　教授　田中ゆかり

法政大学　教授　福井　恒明

法政大学大学院　教授　上山　肇

明治大学　教授　小林　正美

地域連携プロジェクト報告　31

人間関係学部　准教授　八城　薫

社会情報学部　教授　炭谷　晃男

家政学部　准教授　甲野　毅

社会情報学部　教授　細谷　夏実

家政学部　教授　石井　雅幸

人間関係学部　教授　小川　浩

人間関係学部　准教授　堀　洋元

家政学部　常勤特任教授　川之上　豊

教職総合支援センター　常勤特任講師　深水　浩司

家政学部　准教授　加藤　悦雄

社会情報学部　教授　松本　暢子

家政学部　教授　田中　直子

イベント出演団体紹介　44

千代田区立九段小学校　九段囃子の会

千代田区立九段小学校　九段 Planets

大妻嵐山中学高等学校　English Drama Club

大妻中学高等学校　コーラス部（高校）

大妻女子大学・法政大学・武蔵野大学　舞踏研究部

駐日英国大使館太鼓会　どん BRI

大妻女子大学　オールチアリーディング・カンパニー LYNX

大妻嵐山中学高等学校　ダンス部

大妻女子大学 OG　Mauhana Hula Studio

大妻中学高等学校　バトントワリング部

大妻さくらフェスティバル俳句大賞　48

理事長・学長賞受賞作品

優秀賞受賞作品

おすすめイベント

エコな癒しのクラフト作り・復興支援・食育体験

①染色コサージュ
　大妻コタカの故郷である広島県世羅町のお茶やブドウの皮、千代田区の桜の花びら等で染色した布やウッドビーズを用いてコサージュを作ります。それを世羅町のドライフラワーやヒノキ等の間伐材、及び、染色した毛糸と共にガラス容器に飾ります。

②桜型の石鹸カービング（中学生以上）
　ピンクの石鹸を桜型に削り、ビーズで飾ります。削りカスは、手洗い用として、袋に詰めて使います。

③米紙袋（こめかみたい）のアクセサリー
　お米の貯蔵運搬用の紙袋（米紙袋）を再利用したアクセサリーを作ります。

④三陸の和ぐるみコロコロ
　和ぐるみをガチャポンケースに入れて転がし、点数を競って遊びます。

⑤食育クイズ＆ゲーム
　栄養士を目指す学生が、食育体験コーナーでお待ちしています。

①

②

③

④

写真は作品例

時間：10:00 ～ 15:00 まで（作品により開始時間が異なります）
場所：大学校舎地下 1 階　アトリウム
※参加費無料（作品作りは、材料が無くなり次第終了）

御　神　輿　展　示

　提灯に大きく“大妻女子大”とかかれた通称「大妻女子大神輿」を展示します！
　この御神輿は、千代田区の靖國神社で毎年行われている「みたままつり」で本学学生が担いでいるものです。今年度は約 80 人の学生が担ぎ手として参加し、同神社参道を練り歩きました。
　みたままつりの様子も上映していますので、是非ご覧ください。

場所：本館 E 棟 1 階　エントランスホール

千代田のさくらまつり「大妻さくらフェスティバル2020」

千代田区長
石川 雅己

暖かな春の日ざしとともに、桜の香りが運ばれてくる季節となりました。今年も、「大妻さくらフェスティバル 2020」が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

千代田区では、区内の大学等に、本区に関する様々な調査・研究を行っていただく「千代田学」の事業を進め、本年で 17 年目になります。各大学の個性が研究テーマや調査方法に表れる本事業においては、これまでも、区政や地域の発展に寄与するものとして活用させていただいております。

今回も、大妻女子大学が本区の花である「さくら」に着目し、「千代田学」の成果発表をはじめ、素晴らしいフェスティバルを企画・開催していただいていることに、改めて深く感謝申し上げます。

本フェスティバルは、「地域連携プロジェクト」事業の発表、親子でも楽しめるワークショップ、小学生から大学生までの児童・生徒・学生によるアトラクションなどを通じ、多くの皆様に参加していただき楽しい催しになるものと確信しております。

千代田区には、13 万人を超える学生の皆様が学業に励んでおられる中、大妻女子大学では、地域のお祭りや教育、福祉、防災など幅広い分野のボランティア活動にも積極的に参加され、皆様とも絆を深め、地域に愛される大学として、今後も様々な分野に力を注いでいただくことをご期待申し上げます。

なお、本フェスティバルと連携して行われる「千代田のさくらまつり」は、毎年、100 万人以上が来訪する大きなイベントであり、今年も、さくらのライトアップで幻想的な雰囲気を醸し出すなど、多くの皆様に千代田の「さくら」を満喫していただく工夫を重ねてまいる所存です。

結びに、1949 年の開校以来、永きにわたり、地域の方々とともに歩まれてきた大妻女子大学が、今後も一層地域との絆を深め発展されますことを心よりご祈念申し上げます。

「千代田のさくらまつり」と「大妻さくらフェスティバル」

大妻学院　理事長
大妻女子大学 学長
伊藤 正直

千鳥ヶ淵のさくら開花にあわせた「千代田のさくらまつり」が開催される時候となりました。本学院でも、この「千代田のさくらまつり」の一環として「大妻さくらフェスティバル」を毎年開催してきました。今年も、区内大学・専門学校の連携事業としての「千代田学」の研究・活動報告、大妻女子大学「地域連携プロジェクト」の報告、小学生から社会人までの参加による大妻アトリウムでの各種の発表会やイベント、さくらフェスティバル記念俳句の募集と「俳句大賞」の発表などを実施いたします。

千代田区は、東京の中心部を占め、皇居外濠のほぼ内側をその区域としています。国会議事堂やほとんどの官庁がある政治の中枢地域であるだけでなく、大手企業の本社、経団連などの経済組織が立地するオフィス街でもあり、さらには多くの大学や文化施設が集中する文教区域でもあります。こうした優れた都市環境のなかで、本学院も、新しい都市文化の担い手として、その一端を担うべく努力する所存です。

近隣 5 大学により、2018 年度に発足した「千代田 5 大学コンソシアム」では、学生間の単位互換をはじめとして、さまざまの企画を共同で行い、教育・研究の相互発展、研修なども企図されてきました。また、コンソシアムの発会式には、千代田区長にもおいでいただき、区や区内の企業、NGO、NPO との協同も検討が始められています。本学院でも、千代田区内の企業や教育機関との協定も新たに締結いたしました。これを機にさらに地域文化の発展に寄与できるよう微力を尽くす所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

「大妻さくらフェスティバル2020」を祝して

一般財団法人大妻コタカ記念会　会長
井上 小百合

春を迎え、今年も「大妻さくらフェスティバル」が開催されますことをお慶び申し上げます。

近年、温暖化の影響で桜の開花が早まる傾向にあり、入学式の時期から卒業式の時期に移ってきているようにも思えます。今年の開花は３月19日との予想（1月13日現在）がニュースで流れて、靖国通りや千鳥ヶ淵のあの美しい光景が浮かび心弾む思いがしています。

大妻コタカ記念会は大妻女子大学、大妻高等学校、大妻多摩高等学校の卒業生および在学在校する大学生、高校生によって構成される一般財団法人です。大妻コタカの偉業を継承具現することを目的の一つに掲げ、同窓会事業はもとより、一般財団法人として広く一般の公益に資する事業を積極的に進めており、特に文化講演会や生涯学習講習会は、会員だけではなく千代田区在住の皆様を始めとして広く一般の方にも多くご参加いただいております。

これからも地域の皆様に参加していただける企画を積極的に進めていきたいと思います。

「大妻さくらフェスティバル」に寄せて

大妻さくらフェスティバル実行委員長
大妻女子大学地域連携推進センター所長
井上 美沙子

本年の「大妻さくらフェスティバル2020」は例年にもまして象徴的な意味合いを増しているように思えます。それは新元号に代わって初めてのイベントとなるからです。

「令和」とはよく知られているように、梅見の宴で詠じられた32首の「序」の冒頭に収録された「初春の令月にして、気淑く風和らぐ」という当日の様子を述べた『万葉集』からとられたものです。万葉人にとって花は梅であった時代のことです。

「梅の花　咲きて散りなば　桜花　継ぎて咲くべく　なりにてあらずや」と薬師張氏福子が、梅の花の散ったあと、桜がその美しさ、匂いを引き継いで咲く時節へと移行する流れを、先の32首のなかの一つとして歌っているものです。

令和の年に初めて花開いた梅の花の後をおうように、桜の花が初開花する2020年３月に実施される「大妻さくらフェスティバル2020」には、日本と千代田区、そして本学の今後の発展を予感させるものがあります。

これからも地域の活性化・発展に貢献するよう努めてまいりますので、本学への変わらぬご支援を賜りますよう心より祈念申し上げます。

「千代田のさくらまつり」に寄せて

大妻女子大学と区内10大学は相互に連携･協力して、それぞれが有する知的資産を地域に還元することで千代田区を維持し、発展させ、次世代に引き継いでいくことを目的に、「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」を締結しています。区内 10 大学からお祝いの言葉を寄せていただきました。

SDGsを見据えた連携活動を

共立女子大学／共立女子短期大学　学長
川久保　清

新年号の令和２年にも、大妻女子大学から「さくらまつり」の原稿執筆依頼が来ました。このような千代田区内の大学が連携した活動を継続していることに敬意を表します。

さて、本学は今年の４月にビジネス学部を５番目の学部として新たに開設し、女性の活躍推進の社会的要請のある中、リーダーシップを発揮して、社会を支え社会を動かしていく人材の育成に努める方向性を再確認した次第です。このような教育をおこなっていく上で、今後も社会連携活動は欠かせません。

社会貢献の教育・研究の上で、大学間の壁を越えて、持続可能な開発目標 SDGs を見据えた教育・研究を行う事が求められます。今回、大妻女子大学から原稿依頼がありましたのもその一環と考えています。千代田区内の大学が連携して SDGs を考えた教育・研究活動につながることを期待します。

さくらたちに思いを寄せる

城西大学　学長
白幡　晶

昨年亡くなった哲学者の梅原猛さんは、日本人の考え方の根本にあるものは、「山も川も木や植物や魚も、みんな人間と同じように生きている」という縄文時代から受け継がれている考え方であり、自然破壊の遠因となっている人間中心主義の西洋思想を克服するためには、日本古来の自然観が必要だと主張しています。自然を愛おしく感じることで、行き詰まった世界を克服できるのか、腑に落ちない点もありますが、確かに、私たちの心の中には、草木や自然を擬人化して現実世界と一体化したいと思う傾向はあると思います。四季折々の風情を楽しむ若い世代が少なくなってはいますが、凄まじいほどの美しさを発散し、儚く散りゆく桜の花に対する熱狂は、そんな日本人の心の表れなのかもしれません。千代田区に通う若い世代の人たちには、千代田の地に咲き誇るさくらたちが、近代日本の悲しさや懐かしさを、歴史の証人としてつぶさに見続けてきたことを想像し、他の地に咲くものとは一味違う美しさを感じ取って欲しいと思います。

大妻さくらフェスティバル2020に寄せて

上智大学　学長
曄道　佳明

昨今、諸外国から多くの人が、観光で、ビジネスで、また学びの機会を得るために日本を訪れています。赴く先として日本を選んだ理由は多様でしょうが、その根底にあるものは日本文化の魅力ではないでしょうか?例えば、花を愛で、その節目に気持ちを新たにする私たちの文化は、その心の持ちように独特な世界観があるように思います。

今年も桜の季節がやってきました。大妻さくらフェスティバルのご準備にあたられた関係各位に心より感謝申し上げます。私たちの世界観が、その象徴的な桜によって共有され、この国の尊い文化を思い返す機会となることでしょう。この桜を、日本人のみならず多くの外国からの訪問者の方々にも楽しんでいただければと思います。連日報道される気候変動のニュースを聞きながら、私たち日本人の桜への想いと、世界の人々の地球への想いがハーモナイズされればという願いが、ふと思い浮かびました。

さくらまつりの開催、誠におめでとうございます。

国際色豊かな学び場へ

専修大学　学長
佐々木　重人

今年も千鳥ヶ淵の桜が美しい季節に「千代田のさくらまつり」が開催されますことは、心も華やぎ、誠に嬉しいことであります。継続的に開催されておりますことに敬意を表するとともに、心よりお祝い申し上げます。

専修大学は本年（2020 年）、創立 140 周年を迎えました。4 月からは靖国通り沿いの新校地に建設された高層新校舎（140 年記念館）の運用を開始します。そして神田キャンパスでは、新設された国際コミュニケーション学部、生田キャンパスから移設された商学部、既存の法学部による 3 学部体制がスタートします。この 3 学部のコラボレーションにより国際色豊かな新しい学びの場を千代田に創出するとともに、本学がより深くこの地に根差し、地域社会の課題解決や発展に貢献していくという決意を新たにしております。

大妻女子大学が「大妻さくらフェスティバル2020」を企画され、リーダーシップを発揮されていることにエールを送るとともに、これを契機として千代田区にある各大学の魅力を共に発信していきたいと存じます。

明日も桜は咲き誇り、人々を魅了しているのだろう

東京家政学院大学　学長
廣江　彰

宋代の禅僧、無門慧開印行の『無門関』に、「春に百花あり／秋に月あり」で始まる七言絶句がある。その結句の意は、「年じゅうこの世は極楽さ」だという。*1

春、一斉に咲き乱れる花々のうち、私たちはことのほか桜を愛でる。どうしてなのか?

その解は「仇桜」だからか。もちろん、「仇」は九歳の松若丸（親鸞上人）が詠んだとされる「明日ありと思ふ心の仇桜」のそれである。森山直太朗歌う「さくら」にも、「刹那に散りゆく運命と知って」とある。ナウシカは地下で胞子を愛で、私たちは地上で桜の移ろいを愛でる。

狩野長信は「花下遊楽図屏風」で、満開の八重桜の下宴に興ずる人々を描いた。それから幾年経て、今日も私たちは散り際の染井吉野を愛で、「花下遊楽」に興ずる。

さあ、「つまらぬ事を心に掛け（ず）…」*2 満開の桜の下で、この世の極楽に浸り切ろう。

＊1、＊2：岩波文庫『無門関』（西村恵信訳注）による。

九段の桜そして大妻さくらフェスティバル

二松学舎大学　学長
江藤　茂博

二松学舎大学の学生は、九段下駅から千鳥ヶ淵の桜を右手に校舎に向かうことになる。

そのために、学生時代の思い出としてこの桜の季節を心に留めている卒業生たちは多い。

もちろん教師たちもまた同じである。最近では外国人観光客に溢れ、さらに武道館での卒業式や入学式の若者たちが動き、飯田橋や市ヶ谷方向への桜の拡がりと共に人手の賑わいも含めて、春の風物詩となっている。そこに千代田区と近隣の大学とで、「さくら」のイベントが重ねられることになった。千鳥ヶ淵を中心とした桜の拡がりと「大妻さくら」そして「千代田のさくらまつり」という饗宴は、この地ならではの催しとなったのだ。学生たちの桜の季節は、桜による地域づくりとして、しっかりと記憶されていくことだろう。大妻女子大学の取り組みに感謝を捧げながら、私ども二松学舎大学もまた地域から世界にむけて、桜と共に人々の心を豊かにする人材を育てていきたいと思う。

未来を見通す目

日本歯科大学　生命歯学部長
沼部 幸博

この度は「千代田のさくらまつり」の一環として「大妻さくらフェスティバル」が、かくも盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

本学は 1907 年（明治 40 年）創立で、これまで 114 年間、歯科界牽引の役割を果たし続けてきました。

現在は早稲田通り沿いの富士見小学校お隣の富士見 1 丁目に学生講堂・実習室などを備えた学部の建物が、JR 飯田橋西口駅前の富士見 2 丁目に、大学附属病院があります。

学部は靖国神社や北の丸公園にもほど近く、都心で学ぶ環境としては好立地です。ただ創立の地は大手町 1 丁目の皇居大手門へつながる永代通りと日比谷通りとが交わる大手町交差点近くで、当初は高等学校の 2 階を借りていたようです。その後、神田を経て 1909 年に現在の学部の場所に移転してきました。

もし創立の地に固執していたならば、今では高層のオフィスビル群の谷間で若干窮屈な思いをしていたであろう事を考えると、先人の「学びの環境」を見通した、先見の明に感謝するばかりです。

千代田のさくらに思う

日本大学　学長
大塚 吉兵衛

今年もまた、千鳥ヶ淵周辺を埋める見事な桜の季節がやってきました。その美しい季節に合わせ、「千代田のさくらまつり」の一環として、「大妻さくらフェスティバル」を毎年開催されていることに敬意を表するとともに、心よりお祝いを申し上げます。

桜ほど、眺めて心が浮き立つ花はほかにあるでしょうか。日本大学の徽章には、明治 36 年（1903 年）に校名を日本大学としたときから桜が入り、大学の法人本部のある九段坂周辺は、都内でも指折りの桜の名所です。開花時は数知れない花見客が訪れる千鳥ヶ淵はもちろん、日本武道館辺り、靖国神社、皇居周辺。今年は東京オリンピック・パラリンピックの関係で、残念ながら開催できませんでしたが、例年、本学をはじめ多くの大学が卒業式、入学式を桜が咲き誇る時期に日本武道館で執り行っており、この桜に学生達は大いに力を与えられているでしょう。卒業生には励まし、そして新入生には希望を与えてくれる桜が咲き誇る環境を大変ありがたく思っております。

「千代田のさくらまつり」と「大妻さくらフェスティバル」の益々のご発展を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

江戸東京の桜に思いをはせる

法政大学　総長
田中 優子

江戸時代はヤマザクラの並木が、隅田川べりや上野に作られました。江戸には、様々な種類の桜が、時期をずらしながら咲いていたのです。やがて染井で、異種の桜の接ぎ木によってソメイヨシノが新しく開発されました。そして明治以降、ソメイヨシノ一辺倒になります。すべてDNA が同じなので開花予想が可能となりましたが、いっせいに咲いていっせいに散ってしまいます。千代田区内の桜は、明治時代にイギリス大使アーネスト・サトウが東京府に寄付したことに始まるそうです。今や近代の桜が東京を飾っています。法政大学の目の前にある外濠も桜の名所です。法政大学江戸東京研究センターは、外濠に江戸時代と同じように外の川の水を引き込み、「流れ」を取り戻す働きかけをしています。外濠に清流が戻る日、もっと多様な種類の桜が、長い期間にわたって咲き誇るのを期待しています。

地域との新たな連携モデルの構築を目指して

明治大学　学長
土屋 恵一郎

桜が咲き始めたうららかな春は、新しいことへ挑戦する希望に満ち溢れた季節です。本年も千鳥ヶ淵の色鮮やかな桜に迎えられた「大妻さくらフェスティバル」が「千代田のさくらまつり」のもと、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

本学も「千代田のさくらまつり」においては、「明大町づくり道場」を運営する学生たちが、社会連携の一環として、そして主体的学びの実践の場として、毎年協力をさせていただいておりました。地域団体と大学生の新たな連携モデルの構築を目指して、地域の方々のサポートを受けながら、社会の中で自ら課題設定をし、共に考え、解決策を共に創り出しています。キャンパスを飛び出し、普段とは異なる環境に身を置いた学びは学生を大きく成長させます。

今後も千代田区を舞台に、大学という枠組みを越えた学生同士のネットワークが深化し融合することで、地域社会の課題を解決するイノベーションが生み出されることを期待しています。そして、このフェスティバルが区内の大学を繋いでくれることを願っています。

千代田学事業報告

千代田学とは、区内の大学が、千代田区に関する様々な事象を一つの学問として学ぶもので、平成 16 年度から始まりました。千代田区は、審査のうえ、その調査・研究に対し経費の一部を助成しています。

千代田区バードサンクチュアリ化プロジェクト
―エナガの遊ぶ千代田区へ―

大妻女子大学 比較文化学部 准教授　高田 馨里

1. プロジェクト概要

・本プロジェクトは、千代田区の自然・生活環境の持続可能な維持のため、小鳥や水鳥を中心とした野鳥観察の重要性について、小学生とご家族向けの周知活動を行うことを目的としている。
①雀の個体の減少に見られるように、小鳥は環境変化に最も影響を受けやすい。
②多様な野鳥の存在を知ることで、生物多様性への理解を深めることができる。

2. 区との関連・区や地域への貢献

・世界的な大都市である東京中心部にある千代田区は豊かな自然との共存の在り方を世界に発信できる環境が整っており、千代田区で生活し学ぶ子どもたちに自然の豊かさや生物多様性を周知することは、持続可能な自然環境の保護への理解につながる。

3. 実施内容

・夏季と冬季に専門家の講師の先生とともに小学生・ご家族とともに皇居周辺を散策、バードウォッチングを開催した。参加者募集は、区内小学校 8 校の小学 3 年生から 6 年生を対象にチラシを配布して、ご家族からメール連絡してもらうようにした。事前に参加人数を把握し、千代田区社会福祉協議会で行事保険に加入した。
①準備（コース確認、野鳥観察）千鳥ヶ淵緑道から北の丸公園に向かうルート散策
②夏季 2019 年 6 月 21 日
　冬季 2019 年 11 月 29 日
③実施日と申し込み人数　　（アルバイト）
　2019 年　6 月 30 日（41 名）（5 名）
　2019 年　7 月　7 日（25 名）（5 名）
　2019 年 12 月　8 日（17 名）（3 名）
　2019 年 12 月 22 日（26 名）（5 名）
　2020 年　1 月　5 日（ 8 名）（なし）
　2020 年　1 月 26 日（12 名）（6 名）
　　計 129 名
　＊ 7 月 7 日は雨天により中止となった

4.「千代田区小学生・親子バードウォッチング」活動と野鳥生息種類確認作業（講師データによる）

2019 年 6 月 30 日
ハシビロガモ
カイツブリ
カワラバト
ヒメアマツバメ
カワウ
アオサギ
ダイサギ
オオタカ
コゲラ
ハシブトガラス
ツバメ
ヤマガラ
シジュウカラ
エナガ
ヒヨドリ
メジロ
ムクドリ
カワラヒワ
スズメ（19 種　幼鳥も多い）

2019 年 11 月 29 日（準備）
オカヨシガモ　ヨシガモ
ヒドリガモ　カルガモ
コガモ　ホシハジロ
キンクロハジロ　カイツブリ
カワラバト　オオバン
ユリカモメ　カワウ
オオタカ　カワセミ　コゲラ
ハシブトガラス　ヤマガラ
ウグイス　アオサギ
シジュウカラ　ヒヨドリ
エナガ　メジロ
シロハラ　ツグミ
スズメ　キセキレイ
ハクセキレイ　カワラヒワ
（29 種水鳥飛来が顕著）

2020 年 1 月 5 日
オカヨシガモ　ヒドリガモ
カルガモ　ハシビロガモ
コガモ　ホシハジロ
キンクロハジロ　カイツブリ
カワラバト（ドバト）　キジバト
カワウ　アオサギ　オオバン
オオタカ　ノスリ
カワセミ　コゲラ
ハシブトガラス　ヤマガラ
シジュウカラ　ヒヨドリ
ウグイス（声のみ）
エナガ　メジロ
シロハラ　ツグミ　スズメ
キセキレイ　ハクセキレイ
カワラヒワ（声のみ）
（オオタカ、ノスリなど猛禽類）
30 種を確認

5. 課題と展望

・雨天の場合の代替措置の検討
・他の行事の確認が必要（区や小学校、スポーツなどの行事）
・ご家族の皆さんにも双眼鏡を貸与できる体制の整備の必要

プロジェクトの効果として
①小学生とご家族の参加の効果
②実際に見えることの重要性
③専門家による説明の効果

NPO 法人東京生物多様性センターの代表　渡辺仁講師の協力・連携により研究活動が進展した。この場を借りて感謝申し上げたい。

千代田区在住・在勤者を対象にした PHR（Personal Health Record）を活用した 健康増進プログラムモデルの開発

大妻女子大学短期大学部　家政科 准教授　富永 暁子

1. 本研究の目的

①千代田区在住者および在勤者の内、主に生活習慣病予防の一次予防の対象となる青年期（19 ～ 39 歳）と壮年期（40 ～ 64 歳）の健康増進を図るためには、どのような手法が適切か、本研究にて明らかにする。

②「第二次健康千代田 21」で課題として挙げられている「適切な食生活と運動の推進」について、研究代表者が専攻する“栄養学”からアプローチし、「食」および「運動」と「健康」の因果関係を明らかにする。

2. 事業の取り組み

本事業では、まず参加者が健康診断の結果や体力測定の結果など、いわゆる PHR（Personal Health Record）を活用して自分を「知る」こと、そして、栄養相談や運動相談により具体的な手法を知ること、健康料理教室や健康レシピの提供、運動機会の提供を通じて、具体的に行動することを促し、健康増進の達成を導くことを目指した。

＊本事業の実施にあたり、大妻女子大学倫理審査委員会の承認を得て行った。

3. セミナーの参加の募集方法

区内掲示板及び本学 HP 等で募集

4. 実施内容

①第 1 回　2019 年 9 月 14 日（土）
身体計測・健康運動教室・健康料理試食・栄養相談
＊参加者 10 名

②第 2 回　2019 年 11 月 9 日（土）
身体計測・健康運動教室・健康料理教室・栄養相談
＊参加者 12 名

③第 3 回　2020 年 1 月 11 日（土）
身体計測・健康料理教室・栄養相談・グループトーク・修了証授与
＊参加者 12 名

5. 協力スタッフ

運動教室：ギセ靖子
料理教室：赤羽詩穂（栄養士：本学卒業生）
栄養相談：石井恵子（管理栄養士：本学非常勤講師）、小林雪子（管理栄養士：区内在勤）ほか
本学卒業生管理栄養士 4 名
料理教室補助：本学在校生 4 名

6. プログラムの様子

健康運動教室の様子

健康料理教室の様子

第 1 回の料理（試食）

第 2 回の調理

第 2 回の調理

第 3 回の調理

7. グループトークから（第 3 回目に実施）

・減量しているときは同じような物ばかり食べがちであるが、いろいろな物を食べるようになった。
・今までと運動の内容は変えていないにも関わらず、筋肉量がアップした。
・ダイエットをすると調理も運動も毎日行わなければならないという気持ちになるが、「毎日やらなくてもよい。羽目をはずしましょう」というアドバイスでストレスが減り楽になって続けられた。
・野菜料理の献立をたくさんおしえてもらったので、野菜の無駄がなくなった。
・スポーツを 1 日 10 分くらい。毎日と頑張りすぎず、2 ～ 3 日に 1 回のペースで行いたい。
・「～すべき」という考え方ではなく、気楽に気長にやることが大切であることがわかった。
・多く食べてしまったり、運動をしなかった時の罪悪感が減った。
・定期的にこのような機会を設けて欲しい。

8. まとめ

今回のプログラムに対して参加者からは概ね満足度が高く、健康増進のための行動変容がみられ、具体的な行動を促した。今後本プログラムを広く区内で展開していくためには、スタッフ、日程、プログラム内容など十分に検討する必要がある。

『千代田まち歩き学習』事業
～多様な人がつながる地域コミュニティの形成の実験的試み～

上智大学 経済学部 教授　川西 諭

本研究の特色

千代田区では区内に昔からある町会や商店会等を基盤とする地域コミュニティと新たに転入してきたマンション居住者とのつながりをどう作るかが大きな課題となっている。

本研究は、上智大学の学生と教職員が、地域に住む方、働く方が参加する「まち歩き学習」イベントを定期的に企画実行することを通じて、参加者の地域に対する愛着を育み、地域愛を共有する新しい地域コミュニティを育むことを目的としている。

私たちの開発する「まち歩き学習」の特色は、①まち歩きが参加者中心のアクティブラーニングスタイルの学習プログラムになっていること、②上智大学の学生と教職員が地域貢献イベントを自ら企画実行し、さらにそれを改善していくことを通じて、自らも多くのことを学ぶサービスラーニングプログラムになっていることの 2 つの特徴がある。

従来のまち歩きは地域に詳しいガイドが地域の情報を紹介しながら街を歩くスタイルで、どうしても参加者が受け身になってしまう傾向がある。グループで与えられたミッション（指示されたものを見つける、街の魅力を見つける、問いに対する答えを見つけるなど）をクリアすることを通じて、参加者が協力して主体的に学ぶアクティブラーニングスタイルの学習プログラムを開発することで課題解決に有効なプログラムを開発したい。

地域課題を解決する「まち歩き学習」に参加することで、学生は地域社会の課題について深く学ぶことができる。またどうすれば一般の参加者が満足してくれるかを考えながら、学習プログラムを主体的に企画、運営することを通じて学生が学ぶことも多い。参加者だけでなく、運営側の学生も学べる学習プログラムになっていることも「まち歩き学習」の特色である。

2019 年度の取り組み

今年度は上智大学においてまち歩き学習プログラムを無理なく継続できる仕組み（無理のない実施体制、実施方法）を確立し、それをマニュアル化して千代田区内の他大学と連携したまち歩き学習プログラムを実施するなど、千代田区全域での「千代田区まち歩き学習」展開への道を模索している。

これまで無理なく実施できる体制と方法を検討しながら、まち歩き学習プログラムを実施してきたが、3 年目になって活動の継続するうえでの課題もいくつか見えてきた。

実際、今年度のまち歩き学習はこれまでに 2 回しか実施できていない（3 回企画をしたが、うち一回は雨天が予想されたために中止とした）。まち歩き学習の理念に共感し、運営に興味を持って協力してくれている学生、教職員も週末はそれぞれに用事があり、特に中心的なメンバーは休むことができないため、少しずつ負担感も出てきているように思われる。

この現実を踏まえて、メンバーでまち歩き学習プログラムを継続することについて、その意義と実現可能性について話し合いを持った。

意義については、運営側もイベント運営という経験を通じて様々なことを学ぶことができることなど肯定的な意見が多く出た。具体的には、町の歴史や情報を知ることできることに加え、イベント運営のスキルや立場の異なる多様な人とのコミュニケーションのスキルを学べることなどがあ

がった。また、大学のことを学外の人に知ってもらい、大学の宣伝になることや、参加者だけでなく運営者も街の魅力を知ることで、自分たちの大学がある町が好きになることなども多くのメンバーが共有できていた。

一方で、実現可能性については、現状のメンバーでは年８回の実施は負担感が大きく、持続可能ではないとの意見も出た。中心的な運営メンバーが十分に多ければ、交代で運営を担当することで負担感を減らすことは可能かもしれないが、中心的な運営メンバーが少ないのであれば、負担感が出ない程度の実施回数にするべきという意見も出た。

特定の人たちが無理をして実施をしていては、いずれ実施ができなくなってしまうため、負担感を小さくしつつ、プログラムの意義を感じる人たちが気持ちよく実施できる開催間隔を決めることの方を優先すべきであろう。

また、今年の６月には学生メンバーが新しいプログラムを開発しようとしたが実現できなかったこともあった。やはりマニュアルがないこと、具体的には、どれほどの時間的な余裕を持って準備をするべきかについての目安やどのようなタイムスケジュールで準備を進めればよいかのガイドラインがないことが原因である。開催予定日が近づき、参加者募集の告知が出来なかったことで開催の中止を余儀なくされてしまった。

このようなことが起こらないように、準備のイメージができて、困ったときに参考となるわかりやすいマニュアルを今年度の成果として完成させるべく、研究を進めている。

紀尾井町まち歩きの様子
クラシックハウス前にて

四ツ谷駅まち歩きの様子
電動車いすの方も参加してくださいました。

千代田区における和食文化体験・交流資源の教材化に関する研究

−「千代田区和食文化体験・交流プラットホームマップ」の開発・発信−

東京家政学院大学　人間栄養学部　教授　　酒井　治子

1. 研究の背景と目的

平成 24 年度千代田学「食を通した多世代間のふれあい・学びあい・育てあい千代田プロジェクトの構築」の報告では、子育ての自信や充実感をもつ効果から、親子での調理・栽培収穫体験、親同士が子どもの食について話し合う機会等の体験・交流の場へのニーズが高いことが明らかとなった。そこで、今年度は親子の体験のテーマとして、千代田区が、江戸時代など伝統・歴史ある食文化が醸成された地域であることから、平成 25 年にユネスコ無形文化財に登録された「和食文化」を取り上げる。子育て世代が身近に体験でき、親子のふれあい・学び合いの場となる和食文化体験の拠点に焦点をあてる。本事業の目的は、千代田区における和食体験の地域資源の教材化に関する実践的研究を通して、「千代田区和食文化体験プラットホームマップ」の開発をすることである。さらに、管理栄養士として必要な素養である地域の住民について知り、社会資源を探索して発信する力を養うため、他学年合同によるアクションリサーチとして実施する。

2. 活動内容

(1) 取材店舗、参加者

東京家政学院大学人間栄養学部人間栄養学科 1 年生 4 名、現代生活学部健康栄養学科 3 年生 10 名が、各体験コースに分かれて千代田区の親子や子ども達と体験と取材を行った。コースと店舗、取材・体験内容は表 1 の通りである。

表 1　各体験コースと取材店舗一覧

コース	場所		店舗名	内容
おにぎりづくり	番町・麹町界隈	1	米マイスター麹町有限会社	米についてのインタビューや精米等を見学
		2	増辰海苔店	海苔についてのインタビュー
みそ汁づくり	神田界隈	3	天野屋	糀や味噌づくりについて等インタビューし親子で味噌を購入
		4	越後屋	豆腐作りの様子を見学・体験し、親子で豆腐を購入
食器づくり・和菓子	九段・飯田橋界隈	5	陶房江戸遊	親子と一緒に和食器を作り、インタビュー
		6	有限会社宝来屋本店	親子と一緒に和菓子を食しながら、店舗の方へインタビュー
江戸おやつ	神田界隈	7	神田淡平神田本店	青砥の工場、店舗への見学とインタビュー
		8	ワテラス神田そば研	小学生と一緒にそば打ち体験とインタビュー

(2) 活動の様子

学生が店舗の方にインタビューをすることで和食文化について考えるきっかけをもつことができたり、親子と一緒に和食文化体験をすることで普段接することが少ない対象について学ぶことがで

きたと感想がありました。管理栄養士は対象者の気持ちに寄り添うことが求められるため、学生にとって大変よい経験となり、またそれらの総合的な学びを記事にして分かりやすく伝えることの重要性を学ぶことができました。

おにぎりづくりコース（米マイスター麹町有限会社）

食器づくり・和菓子コース（陶房江戸遊）

江戸おやつコース（神田そば研@神田ワテラス）

みそ汁づくりコース（越後屋）

（3）活動発信先

「ぶらチヨダ(http://www.chiyoda-event.com/burachiyoda)」の関連サイトとして「たべチヨダ」を作成し、千代田区内外の方に広く千代田区の魅力と親子の和食文化体験の拠点とその活動内容を学生の記事で届ける。

たべチヨダサイトの一部例

千代田区の郷土資料を用いた Wikipedia記事作成ワークショップの展開

二松学舎大学　文学部　専任講師　　谷島　貫太

1. プロジェクト概要

ウィキペディアの執筆を通して地域のことを知り、また地域の情報を広く発信していく「ウィキペディアタウン」というワークショップがあります。本プロジェクトは、大学のゼミの活動としてこのワークショップを企画、運営することで、地元の人たち、外の地域の人たち、学生とが交流を深めながら地域の歴史や文化財について知り、また地域について発信していく機会を生み出していきます。

2. ウィキペディアタウンについて

ウィキペディアタウンは、日本では 2012 年頃から実施され始め、いまでは日本各地で活発に実施されています。多くの場合、ワークショップは街歩きセットで設計されます。午前中に取材を兼ねた街歩きを行い、午後にはチームに分かれ郷土資料／地域資料を調査しながら地域の史跡、文化財などについての記事を執筆していきます。その際、街歩きしながら撮影した写真もウィキペディアの姉妹サイトであるウィキメディアコモンズにアップロードし、記事に組み込みます。作業の成果はウィキペディアの記事として公開され、即座に世界中に発信されることになります。

3. プロジェクトのねらい

本プロジェクトには大きく以下の狙いがあります

・地域の歴史についてより深く知り、愛着を深める機会をつくる
・地域の情報をウィキペディアの記事として発信していく
・学生が地域について知り、また地元の人たちと交流する機会をつくる
・ワークショップの企画、広報、運営の全体を学生が担当することで、プロジェクトマネージメントについての総合的なスキルを身につける

4. 実施内容

本稿を執筆している 2020 年 1 月現在ですでに 2 回のワークショップを実施し、2 月に三回目のワークショップの実施を計画しています。

① 2019 年 6 月 1 日（土）：学内の学生向けの予備ワークショップ

ワークショップ実施のノウハウを蓄積するため、二松学舎大学文学部都市文化デザイン学科の 1 年生を対象とし、予備ワークショップを実施。以下の記事が作成された。

「鍋割坂」「梅林坂」「神田上水掛樋跡」「筋違橋門」「冬青木坂」「和田倉橋」「滝沢馬琴宅跡の井戸」

② 2019 年 11 月 23 日（土）：一般向けワークショップ「ウィキペディアタウン in 秋葉原 Vol.3」

学生が企画、広報、当日運営を担当し、秋葉原にあるサテライトキャンパス「AKIBA Lab.」を会場として一般向けのウィキペディアタウンを開催した。当日は計 7 名が参加した。以下の記事が

作成された。

「川上座」

③ 2020 年 2 月 15 日(土):一般向けワークショップ「ウィキペディアタウン in 秋葉原 Vol.4」(原稿執筆時点では予定)

千代田ヴァーチャル時空散歩アプリ「ちよダッシュ!」の充実と展開

日本大学　文理学部　教授　田中 ゆかり

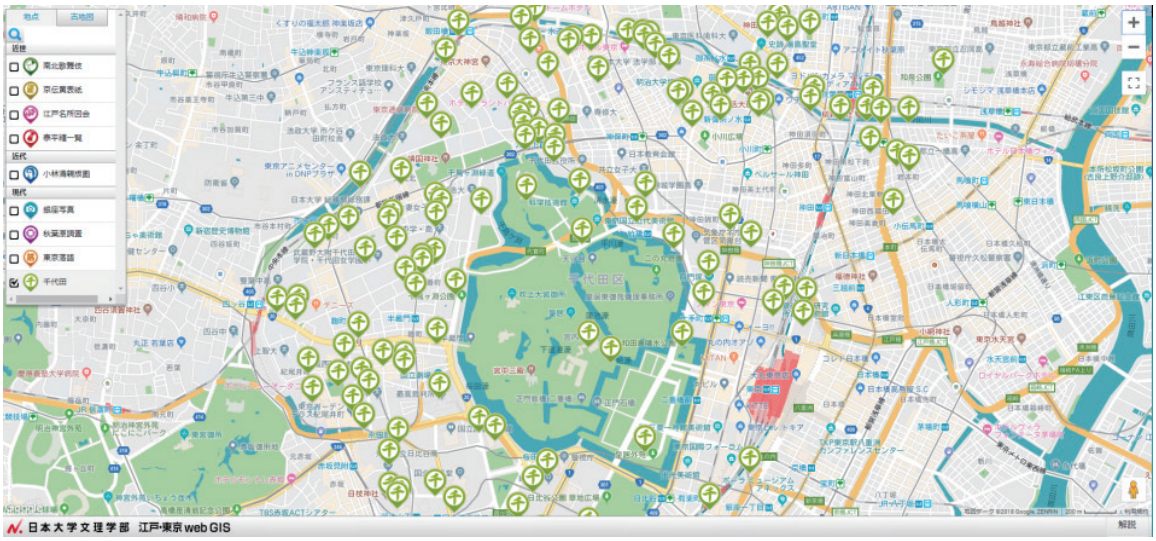
プロジェクトについて

本プロジェクトでは、千代田区の文化資源と日本大学文理学部の情報資源を最大限に活用することを目指し、基盤サイトの充実とそれに基づく「千代田ヴァーチャル時空散歩」ができるプロトタイプアプリの構築に取り組みました。

千代田区は江戸・東京の中心地であることから、区内に歴史・文化財が多数存在します。例えば、標柱・説明板・碑といった名所・旧跡や、建造物、石碑といった千代田区に関連する人物などです。さらに、近年ではマンガやアニメなど、サブカルチャー分野でも千代田区が数多く表象されます。このようなコンテンツを Web 上の地図にマッピングし、それを誰でも使えるように無料で公開すれば、一般の方々にも利用しやすい形で千代田区の歴史・文化財の価値を共有することができるという考えに基づき、本プロジェクトを推進しました。

コンテンツ類を Web 上の地図にマッピングするプラットフォームのひとつに、研究代表者らによる「江戸・東京 WebGIS」（2013 年から公開中）があります。これは、Google Map に近世・近代期の古地図や文学テキスト・写真を配置し、近世・近代・現代を透かし見ることで江戸・東京圏を再構築することを目指したものです。2018 年度には「江戸・東京 WebGIS」に千代田区の文化資源を示す標柱データや、麹町の文人街データを整備しました。

2019 年度のプロジェクトでは、当該サイトをスマホアプリ化したプロトタイプアプリ「江戸東京ものがたり」と、千代田区に焦点を絞りコンテンツ搭載箇所で立ち寄るとスタンプを集めることのできる「御朱印帳」をイメージしたゲーム性をもつ「ちよダッシュ！」の完成を目指しています。



2019 年度の取り組み

(1) プロトタイプアプリの構築

「江戸・東京 WebGIS」をベースとしたスマホ用プロトタイプアプリの制作は、文理学部情報科学科・谷聖一研究室の学部生らが卒業制作の一環として取り組みました。アプリは「江戸・東京ものがたり」・「ちよダッシュ！」(右図:「ちよダッシュ！」アイコンイメージ) として公開予定です。Android、iOS どちらでも使用できるようになることを目指して準備を行っています。

「ちよダッシュ！」には、現在地に近いアイテムのスタンプを取得したり、現在どの程度自身がスタンプを押したのか達成度を確認できる機能も搭載する予定です。

(2)「江戸・東京 WebGIS」の増補のための調査

WebGIS・アプリに搭載する資料増補のため、日本大学文理学部・経済学部開講授業において実地調査を行いました。文理学部国文学科・竹下義人教授担当「フィールドワーク入門」では千代田区神田神保町界隈の調査を行い、各班独自のお散歩コースを考え出しました。経済学部・山岸郁子教授担当「教養研究」では、千代田区内の文学史跡や、アニメやマンガの舞台となったいわゆる「聖地」についての調査を行いました。経済学部・林直樹専任講師担当「教養特別研究」においても、アニメやマンガに出てくる千代田区内の地点と、実際の地点調査を行い、アニメ・マンガの描写と実際の地点の相違点について検討しました。

(3) 地図ファイルの作成

(2) の調査結果を持ち運びできるものにした、地図ファイルも現在制作しています。これは、2018 年度に発行して好評を得た千代田区地図ファイルの続編で、2019 年度は千代田区神保町～秋葉原界隈の名所を搭載する予定です。

千代田区の地域史資料アーカイブ化の展開

法政大学　エコ地域デザイン研究センター　センター長　福井　恒明

はじめに

江戸時代以来東京の中心的位置にある千代田区においては、文献のみならず古地図・古写真・図面など、地域の歴史を知るヴィジュアル資料が豊富である。しかし、資料の存在が一般には知られておらず、資料へのアクセスが容易でないのが実情である。

目的

・千代田区内の地域史に関する資料（古写真・絵画・絵はがき等の過去の地域の姿を確認できる資料や部分的な地図など）を収集し、出典、場所や年代、解釈についての情報を付加して整理する。
・法政大学のウェブサーバーに構築する地域史資料アーカイブシステムを活用し、収集した資料に必要な加工を施した上でシステムに実装し、資料の閲覧性を高める。

地域史資料の整理

元千代田区役所職員で長くまちづくり行政に携わってこられた小藤田正夫氏より、約 8000 件の写真や地図資料画像を提供していただいた。このうち、千代田区内を対象とした写真資料 1134 件についてデータベース化した。整理した項目は、出典情報（書籍名・著者名・出版社名・出版年・掲載ページ）、資料題目、所在（現在の住居表示の町名。出典書籍等に掲載されている場所から確認。記載がない場合は別途確認）、対象物の種別（建物・橋・川・濠・駅・道・鉄道・神社・工作物等）、撮影年代、資料に関する説明とした（図 1）。

図 1　データベース登録画面例

アーカイブシステムの構築

デジタルコレクションのためのコンテンツ管理システム Omeka を利用し、情報整理を行った資料のアーカイブ化を行った。位置関係をわかりやすくするために、地図上に資料の所在を表示できるプラグイン（拡張機能）を導入した。さらに、①古地図を表示し資料の撮影時の状況を確認できるようにする、②資料を撮影年代に従って表示し（タイムライン表示）、時系列関係をわかりやすくする、③資料名称をリスト化して表示し、どのような資料があるかをわかりやすくする、④画面上に千代田区の歴史に関する一般的な事項を表示し、社会背景と資料との関係をわかりやすくする、などの工夫を行った（図 2, 3）。

図 2　Omeka の資料表示画面

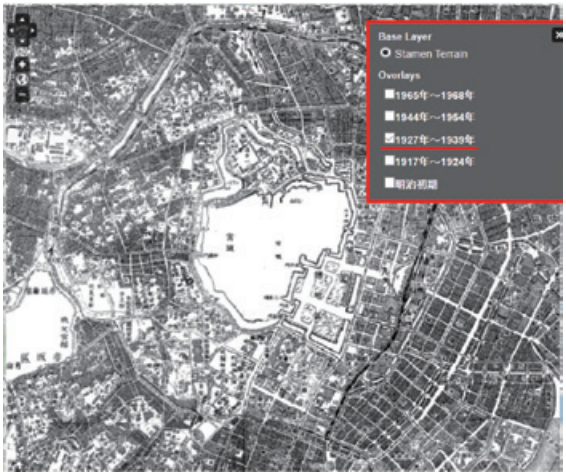


図 3　Omeka における古地図表示

おわりに

Omeka を用いたアーカイブ化により、キーワード検索から具体的な施設名等による資料検索や、年代・地域などによる資料の確認ができる。地図上の表示により、明治期から現在までの変遷をひとつの画面で確認できる。これにより、行政関係者や市民が千代田区の地域史資料に容易にアクセスできるようになった。

地域社会における地域循環バスの実態と今後の展開可能性
ー地域福祉交通「風ぐるま」の活用方法の検証ー

法政大学大学院 政策創造研究科 教授　上山 肇

1. はじめに

近年、我が国においては、地域社会における高齢者や障がい者、学生などの交通弱者の交通手段に関する問題・課題に対応するため、千代田区のように地域福祉交通として地域循環バスの取り組みを行っている自治体がある。一般的に、広く地域住民の移動手段を確保するために地方自治体が運用しているものとしては“コミュニティバス”があるが、交通事業者が赤字を理由に路線から撤退した後、高齢者や障がい者、学生などの交通弱者の交通手段が失われないように、費用を市町村等が負担してバスを委託して運行することが多い。しかし、こうした地域循環バスの運行については、様々な問題・課題を抱えており、各自治体においてもその対応策を検討しているところである。

本調査研究は、千代田区における「平成 31 年度千代田学事業」において本研究テーマを取り上げるにあたり、地域循環バスの中で地域福祉交通として運行されている千代田区の「風ぐるま」に関する利用実態を明らかにしながら、今後の活用方法と展開の可能性について探ることを目的としている。

2. 活動の結果

2.1 インターネット調査

(1) 調査方法：マクロミルによるインターネットリサーチ

(2) 調査対象と調査内容：千代田区民や在勤・通学者に対して、利用実態や意識・要望等について、インターネット調査を行った。有効サンプル数 412 人であり、質問項目は 30 項目である。

(3) 調査期間：2019 年 7 月 24 日（水）～ 2019 年 7 月 29 日（月）

(4) 調査結果：結果として次のようなことがわかった。①通勤・買物を目的とする徒歩・電車・地下鉄での移動が多い　②利用時間帯では、出勤・通学時間帯が多く、行先では区役所が多い　③「風ぐるま」を知らない人が多い　④運行本数の増、運行時間帯の拡大を希望する声が多い　⑤運行継続を望む声が多い　⑥他自治体でも同様の課題を抱えていること

複数回答	N	%
通勤	15	19.2
通学	5	6.4
区役所	32	41.0
高齢者総合サポートセンター　かがやきプラ	5	6.4
その他の公共施設（出張所など）	10	12.8
駅（駅名【　　】駅）	2	2.6
子どもの送迎	4	5.1
通院	9	11.5
家族などの通院の付き添い	4	5.1
介護サービス利用	1	1.3
家族などの介護サービス利用の付き添い	2	2.6
趣味・習い事	11	14.1
散歩	11	14.1
買物	13	16.7
その他（ご記入ください【　　】）	5	6.4
全体	78	100.0

表 1　「風ぐるま」の利用目的

複数回答	N	%
「風ぐるま」を知らない	164	49.1
利用方法が不明	59	17.7
バス停の場所が不明	82	24.6
利用発着地からバス停が遠い	11	3.3
ルートが不明	79	23.7
ルートに利用したい場所がない	39	11.7
料金（現在100円）が高い	3	0.9
運行本数が少ない	47	14.1
早朝に移動したいが運行していない	6	1.8
夜に移動したいが運行していない	7	2.1
他の交通手段で十分	83	24.9
その他（ご記入ください【　　】）	8	2.4
全体	334	100.0

表 2　利用しなかった理由

2.2 東京都 53 自治体へのアンケート調査

(1) 調査方法：郵送、電子メールまたは FAX のいずれか

(2) 調査対象と調査内容：東京都 23 区と多摩地域 30 市町村に対して、地域循環バス運行の実態に関するアンケート調査を行った。質問項目は 21 項目である。

(3) 調査期間：2019 年 7 月 8 日（月）～ 2019 年 8 月 9 日（金）

(4) 調査結果：結果として次のようなことがわかった。①運行を継続する上での経費削減問題の深刻化　②国の自治体への支援の必要性　③運行の実態把握の必要性　④区部より多い市町村部の情報公開と運行見直し　⑤住民への情報提供の必要性　⑥広域連携の必要性

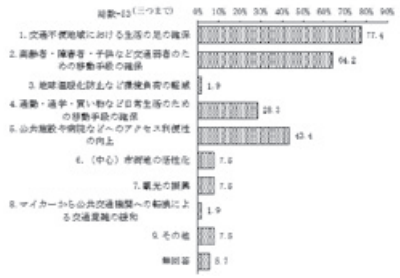


図 1　運行の目的に最も重要視されている事項

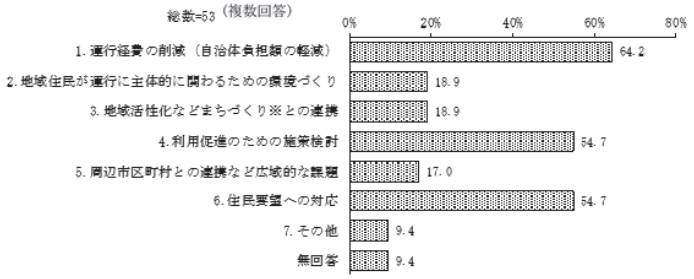


図 2　今後の運行に関する課題

2.3 大学院授業におけるワークショップ

今回のテーマについては、2018 年度・2019 年度に行われた本学大学院における「地域社会論」の授業で取り上げ、ワークショップを行い検討した。2018 年度と 2019 年度のグループワークでは、2019 年度に行った調査結果の有無による違いがあったが、自治体へのヒアリングや実際に「風ぐるま」に乗車したりするなど、グループごとにいろいろな角度から検討がなされたものと考える。グループによるまとめと提言では、①運行形態（ルートやバス停含む）の再考（の必要性）　②「風ぐるま」の認知度向上（の必要性）　③イベントや団体との連携（の必要性）といったことに集約される。

写真 1　2019 年度授業 GW の様子

3. おわりに

全体を総括して今後の方向性を示す上で下記のことを提言した。内容としては主に「風ぐるま」利用率を向上することに着目しているものが多い。 提言 1 運行形態の再考：運行ルートや停車するバス停の弾力的な運用　提言 2「風ぐるま」の認知度を高める取り組みの検討：特に在勤者、在学者の認知度を高める。 提言 3 イベントや団体（社会福祉法人や NPO など）との連携：高齢者や障がい者対象のイベントと連携した運行。 提言 4 広域（自治体）連携：複数の自治体との連携。広域連携による隣接区の高齢者・障がい者イベント参加の呼びかけ。 提言 5 持続可能な事業経営に向けた事業性の確保：高齢者事業者に対し参画の呼びかけ協賛を集り、「風ぐるま」広告ラッピングによる公告収入を確保する。 提言 6 情報の提供：地域情報の提供。イベントについて告知の工夫。 提言 7 接客強化：女性運転手が多いという強みを活かしたサービスの提供（おもてなし、コンセルジュ、DJ ポリス的な和ませる役割等）。

「インターユニバーシティ神保町」による「まちの図書館」を立体的に展開するためのまちづくりビジョン調査と提案

明治大学 理工学部 教授　小林 正美／教授　山本 俊哉／教授　田村 誠邦

神保町の魅力を生かしたまちづくりを目指して

私たちインターユニバーシティ神保町は、大学の枠を超えて連携し、地元関係者と約 10 年前に打ち出した「まちの図書館」というまちづくり構想を立体的に展開する研究会を重ねてきた。

今年度は、神保町 1 ～ 3 丁目奇数番地の土地建物の権利関係や駐車場に関する実態調査、関係地権者による共同建て替えに関するインタビュー調査、地区計画の導入に伴う建て替えに関する調査等進めてきた。以下、それらの成果を報告する。

土地建物の権利関係調査

昨年度実施した神田神保町 1 ～ 2 丁目の奇数番地のすずらん通り・さくら通り以北に加え、すずらん通り・さくら通り以南および神保町 3 丁目の土地建物の権利関係を明らかにするため、神保町 3 丁目など昨年度未取得の不動産登記情報を取得するとともに、権利関係のタイプ別の整理分析を進めた。その結果、すずらん通り・さくら通り南街区も、同北街区と同様、AAC 型（土地建物の所有者は同一で建物利用者は別）が比較的に多く見られた他、区分所有型のマンションも多く、AAA 型（土地建物の所有者と建物利用者が同一）が多くを占める靖国通り沿道とは異なる特性を有していることが明らかになった。

駐車場実態調査

築 35 年以上の老朽化した中小規模の建物が多い神保町において、今後の建築更新において駐車場附置義務による 1 階部分の駐車場化は、これまでの古書店業を中心とした生業空間、商店街の連続性の喪失という問題をはらんでいる。また、大通りに面した敷地では歩道の自動車の乗り上げや道路の切り下げによる安全性の低下も考えられる。一方で物流産業の変革や公共交通機関の充実などにより都心部への自動車の流入は減少している。そこで、神保町 1 ～ 3 丁目の駐車場設置について実態調査を行いました。これにより小規模店舗が多く密集する地域で駐車場はほとんど設置されておらず、今後敷地統合を伴う建築更新が発生した場合、駐車場の附置義務によって駐車場をつくらなくてはいけない実態が明らかになった。

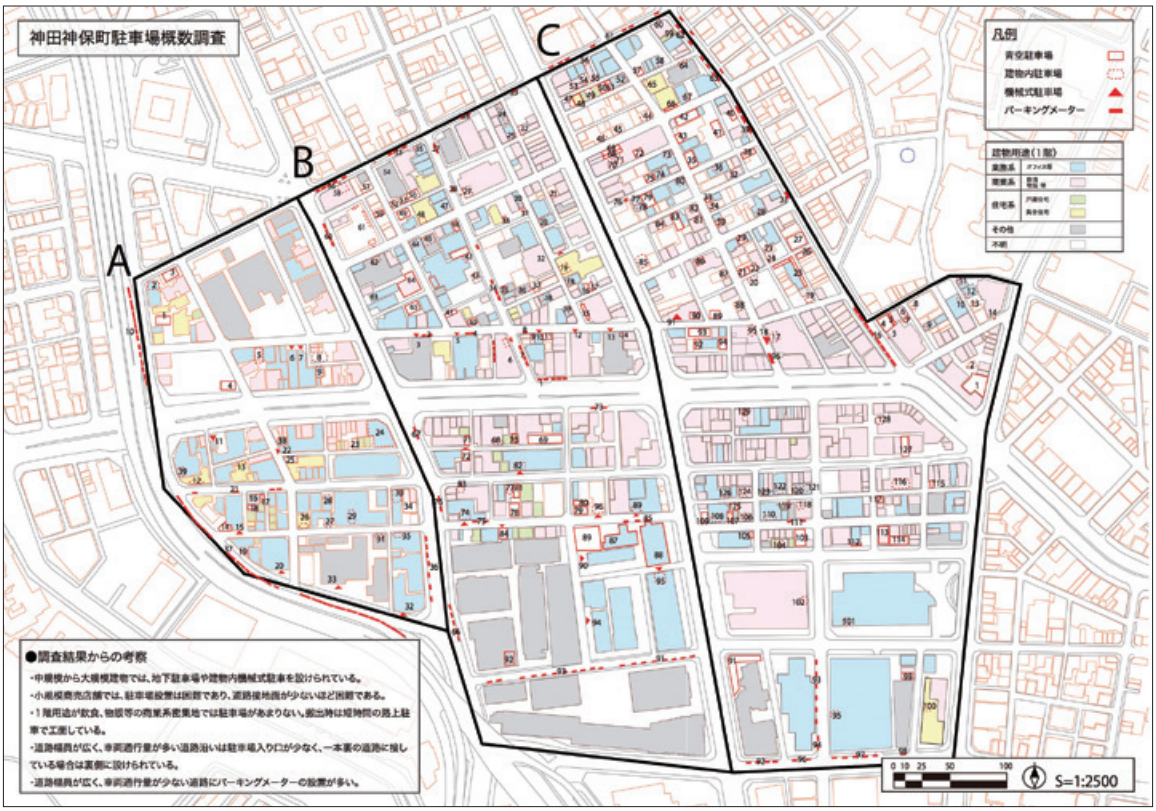
共同建て替えに関する関係地権者調査

昨年度共同建て替えシミュレーションを実施したモデル街区（神田神保町 1 丁目 1 番地、同 3 番地、2 丁目 3 番地）には、過去に共同建て替えをした建物のうち、靖国通り沿道の 5 件の共同建て替えの関係地権者のインタビューにより、次の点が明らかになった。1960 年代初頭の共同建て替えは、棟割長屋の 2 軒と 6 軒がそれぞれ 4 階建てに立体化し、敷地割はそのままにして店舗面積と住居面積を拡大していた。1980 年前後は、5 軒長屋の 2 軒が裏手の 3 軒長屋を共同化して 9 階建てに立体化して新たな古書店を上階に増やし、残りの 3 軒の共同化とその隣の街区の共同化がそれに続いた。共同建て替えの方法の違いは、建築年の関係法令の違いに加え、靖国通り沿道裏手の敷地形状の違いが大きな影響を及ぼしていた。

法定地区計画の導入に伴う建て替えに関する調査

「本の街」神保町における法定地区計画の導入による建物更新の影響を明らかにするため、神田神保町 1 ～ 3 丁目の奇数番地における 1990 年から 2010 年の建築確認申請調書を収集・整理し、地区計画導入済みの 2 ～ 3 丁目と未導入の 1 丁目の策定前後 10 年間の建物更新の特性を比較・分析した。その結果、2 ～ 3 丁目は 2000 年に地区計画を導入した後、特にさくら通り南街区における共同住宅の新築増加が顕著であり、住宅設置に伴う容積率の緩和を利用して、二辺以上の道路に設置している敷地において比較的に高層の建築物が建てられていることが明らかになった。一方、地区計画を導入していない 1 丁目においても、2000 年以降に住宅を設置した建築物が増えており、比較的に住戸面積の大きな建築物も見られた。

以上の成果と課題は、地元関係者を交えて議論を深め、今後のまちづくりの計画主体となるマネジメント組織を形成することが重要となることを提言としてまとめた。



神田神保町駐車場概数調査

共同研究者：共立女子大学　家政学部　教授　堀　啓二
東京都市大学　都市生活学部　講師　中島　伸

地域貢献プロジェクト

広く地域の皆さまへ大妻女子大学の教育と研究成果を還元し、皆さまの多様な学習ニーズに応えるとともに地域社会の教育、学術、文化の発展に貢献する活動の推進を図ることを目的として、平成 26 年度からスタートしました。

今年度は 4 件のプロジェクトが採択されています。

令和 1 年度 地域貢献プロジェクト採択課題

働く男性女性のプレコンセプションケアの支援
(家政学部　教授　川口 美喜子)

多摩図書館ツアー 2019(学びのかなめ、公共図書館、学校図書館、大学図書館、そして世界の図書館を知る)
(教職総合支援センター　常勤特任講師　深水 浩司)

大妻力による世羅町の 6 次産業化支援を区民の健康力向上につなげる地域貢献活動について
(短大家政科　教授　堀口 美恵子)

Likio Ellinidon：ギリシャ伝統舞踊公演
(比較文化学部　准教授　渡邉 顕彦)

大妻女子大学地域連携推進センターは、地域を対象とした教育・研究活動等を通じて、地域の皆様方と交流を深めるとともに、本学が持つ知的資産を地域へ還元し、地域を発展させるための取り組みを行って参ります。

地域連携推進センター HP：http://www.chiiki.otsuma.ac.jp/

地域連携プロジェクト報告

大妻女子大学では、学生の主体性や自立心が身に付く地域連携活動の一層の推進と発展を図ることを目的として、平成 25 年度に「地域連携プロジェクト」を創設しました。「地域社会との連携を活性化するとともに、学生の教育に資する活動」をテーマに、今年度は 12 件のプロジェクトが採択されています。

からきだ匠（たくみ）カフェ～地域がつながる場所～

代表者：人間関係学部 社会・臨床心理学専攻 准教授　八城 薫

多摩キャンパス（唐木田）周辺は病院、福祉施設、教育施設など様々な施設が存在し、身体や心に不安を抱えても安心して暮らすことの出来る環境が整っています。そこで働く専門家（匠）集団が連携して吸引役となり、日頃から地域の様々な属性、世代の方々と繋がるような居場所づくりをすることで、いざという時に助け合えるような地域でありたい。そんな想いから2017年4月、あい介護老人保健施設、社会福祉法人楽友会、多摩市社会福祉協議会の方々との連携で活動をスタートさせ､このプロジェクト“からきだ匠カフェ～地域がつながる場所～”が生まれました。

「からきだ匠カフェ」は、毎月第4水曜日の15時から2時間ほど、唐木田駅前のレストラン“キッチンティス”さんのご協力をいただいてオープンしています。本学からは、社会・臨床心理学専攻の学生が企画メンバーとして活躍してくれています。今年は素晴らしいテーマソングも完成し、学生たちが作成してくれた紹介動画と合わせて活動を発信しながら活動しており、さらに多くの人とつながる架け橋になっています。

お子様からお年寄りまで、様々な方々で一緒に楽しむ場所・空間づくり、「共生社会」の実現を目指す本学学生の実践の場づくりを目指して、これからも楽しく活動を続けていきます。

♪テーマソング

「からきだ匠カフェ～笑顔の咲くところ～」

からきだの道に　百本シダレ
桜咲くこの街に　はじまる物語
からきだ通りに　咲くハナミズキ
唐木田のこの店に　集まる昼下がり
歳のせいだとか　病気のせいとか
そんなことは忘れて　笑顔咲くところ
からきだ匠カフェ　だれもが匠だね
笑顔と歌で　広がってく
世代を超えて　僕らをつなげる　架け橋さ

活動内容

第1回　4月24日（水）　新しいつながりを作ろう！～唐木田人気スポットの情報交換など～
第2回　5月22日（水）　もしバナゲーム体験会　～もしもの時、あなたならどうしますか？～
第3回　6月26日（水）　座って気軽に背骨コンディショニング体操　～身体の不調をセルフケアする方法～
第4回　7月24日（水）　からきだ鉄道博物館　～でんしゃ好きあつまれ‼～
第5回　8月28日（水）　夏休みちびっこ企画　～夏まつり～
＜番外企画＞　9月21日（土）RUN伴多摩に「匠カフェチーム」として参加
第6回　9月25日（水）　認知症を知ろう！～「もしも」を読んで話しましょう～
第7回　10月23日（水）笑いヨガ　～悩みも笑いで吹き飛ばそう！～
第8回　11月27日（水）はじめての太極拳　～身体で感じましょう～
＜番外企画＞　12月11日（水）2019介護医療福祉事例発表会にて活動発表
第9回　12月25日（水）クリスマス会　～みんなで歌いましょう～
第10回　1月22日（水）新年会～2020年もよろしくお願いします！～
第11回　2月26日（水）うたごえカフェ　～楽しく歌いましょう～
第12回　3月25日（水）新年度に向けて　～出会いと別れと～
※上記の企画実施のために、毎月1回程度で企画会議を行っています。

7月の企画　「からきだ鉄道博物館」の様子

10月の企画　「笑いヨガ」の様子

多摩 NT における子どもと中高年の居場所づくり

代表者：社会情報学部 情報デザイン専攻 教授　炭谷 晃男

1. 経緯

多摩ニュータウンの再生を構想した地域プロジェクトを実施。寺子屋プロジェクトとして八王子市教育委員会等と連携して地域の子どもたちの学習支援及び居場所づくりの活動を行う。学習面で一度つまずいた子の復習の機会や学習習慣が身に付いていない子どもたちにきっかけを提供する。楽しく学べる「子どもの居場所づくり」を提供したいと考えます。さらに、みなみおおさまの会等と連携して、南大沢の地域の「中高齢者の居場所づくりプロジェクト」を実施しました。このように多摩ニュータウンの住民の手による子ども達と中高年の交流の機会を促進し、両者の繋がりを目指すプロジェクトとしたい。

2. プロジェクト

a. 寺子屋活動

多摩キャンパス周辺の八王子市立松木小学校、長池小学校で月に 1 回程度土曜に学校の教室や体育館を借りて子どもの活動を支援する寺子屋活動を行った。6 月 22 日、7 月 6 日、9 月 7 日、10 月 19 日、11 月 23 日、12 月 7 日、1 月 18 日、2 月 22 日、3 月 20 日の 9 回実施。内容としては寺子屋学習教室（漢字検定）、料理教室、ボッチャ、プログラミングカー、ミサンガ、アニメーション、万華鏡教室等を実施した。

b. 高齢者の居場所づくり

月一回程度、いきいきサロンとみなみおおさまカフェの 2 つの高齢者のサロンが行われている。しかし 11 月末にいきいきサロンの場所を提供いただいた全日食が突然撤退することになった。そのため 11 月からは高齢者の居場所づくりに学生は参加できなくなってしまった。

3. 効果

①参加学生には計画、実施、振り返りという PDCA を体験する貴重な社会的体験となった。②こどもたちに教えるという貴重な体験を持つことが出来た。 ③このプロジェクトを通じて大学での学びの意義にリアリティを持つことが出来たと考える。

千代田&多摩地域
子供自然体験教育プロジェクト

代表者：家政学部　ライフデザイン学科　准教授　甲野　毅

【目的】

本プロジェクトは、環境イベントへの参加、自然体験教育プログラムの企画・実施、大妻祭への参加の３つの環境教育の実践からなる。子供の成長にとって自然体験は重要な役割があるとされているが、現在の子供たちは自然と触れ合う機会が減少し、自然との距離が開いている状態にあると言える。この問題を解決するために、子供達に少しでも自然と触れ合うことができる体験の機会を提供したいと考えた。また、学生が主体となって行うことから、調査、企画、実践の手法を学ぶ良い機会になるであろう。そして、地方自治体と協働して実施し、大妻女子大学のキャンパスがある千代田地域、また多摩地域の自然環境に貢献することも重要な目的である。

【活動内容】

環境イベントの参加では、立川市の開催主旨に従い、ゼミナール内でプログラムを企画し、与えられたイベントスペース内で、来場者に対してプログラムを実施し、環境の大切さを伝える。自然体験教育プログラムでは、地域のニーズに合わせたプログラムを自治体と協議しながら、学生が最初から企画、計画を行なう。そして自然豊かな都市公園において、参加者を募集して実践する。大妻祭では、来訪者に、学生が実習で訪れた妙高高原の里地・里山の現状を、五感を通して体感してもらいながら、理解してもらうために、企画、実践を行う。

【結果】

立川市環境イベントでは、子供達を対象に「ペットボトルラベルを活用したしおり作り体験教室」を提供した。海洋プラスチック問題の現状と、その解決策の１つとしてペットボトルリサイクルを確実に実施することの大切さを伝えることをテーマに掲げ、50 名を超える子供達に環境教育活動を実践した。大妻祭では教室を体感スペースに演出し、80 名の来訪者に里地・里山を体感できるプログラムを実施した。そして自然体験教育プログラムでは、都市公園を４つのゾーンに分け、立川市と準備を進めたが、残念ながら雨天のため中止となった。

プロジェクト成果の第１に、子供への自然体験教育を行うことで、開いてしまっている自然との距離を縮め、子供達の成長に良い効果を与えたと考える。例えば、子供の集中力が高くなる、また優しく思いやりを持つようになるなどの内的状態を変化させる可能性がある。また他人に優しくコミュニケーションをとることができるなど外的状態を変化させることもある。第２に、学生自身が主体となって行うことで、学生自身が調査、企画、実践力を身につけることができたであろう。そして最後にそれぞれのキャンパスのある地域において、子供達の自然体験機会を創出することができたと考える。

立川市環境イベント

大妻大学祭

プログラムのための素材作り

能登の里海を守る：
地域の活性化と海育普及プロジェクト

代表者：社会情報学部 環境情報学専攻 教授　細谷 夏実

【目的】

これまで私たちのゼミでは、能登の里海保全や地元の子どもたちに海の大切さや楽しさを感じてもらう海育普及に関する活動を行ってきています。本プロジェクトでは、能登の里海の大切さをさらに多くの人に知ってもらい、利活用に向けた理解を広げるための情報交換と発信をすること、また、子どもたちの海の体験の場づくりを目的として活動を行いました。

【活動内容】

具体的な活動として、以下のような取り組みを行いました。

○能登でのフィールドワーク～地域の活性化につながる情報の収集～（2019 年 8 月 5 ～ 9 日）

夏休みに能登に出かけ、伝統漁であるボラ待ち櫓漁復活に尽力している方たち、野生の椿の保全や活用を目指した取り組みを行っている方たち、など、地域で活動している多くの方たちのお話を伺い、現地の調査も行ってきました。さらに今年は、野生の椿の活用法として、地元の穴水高校の生徒さんたちと一緒に、自分たちで手もみした「椿茶」の商品化を目指す試みも始めました。

○大妻祭出展（2019 年 10 月 26 ～ 27 日）

ゼミでは、4 年前から文化祭に参加し、能登の紹介・物産販売などを行っています。今年は椿茶の販売などに加え、夏に一緒に活動した穴水高校の生徒も参加し穴水町の紹介クイズなどを行いました。

○里海スクール@能登（2020 年 2 月 10 日）

昨年から、穴水町の一大イベントである「雪中ジャンボかきまつり」（今年は 2 月 8 ～ 9 日）で大妻のブースを出展しています。今回はイベント翌日に、穴水小学校で、モバイル顕微鏡を用いて地元の特産品の 1 つであるナマコをはじめとした海の生きもの観察教室（里海スクール）を開催しました。

【まとめ】

今回、上記のような取り組みを通して、能登の地域のことを知っていただく機会、および子どもたちに海の体験をしてもらう機会を提供することができました。

今後も里海保全や地域の活性化に向けて、地域の方たち、学生たちと力を合わせていろいろな取り組みを行っていきたいと考えています。

三番町アダプトフラワーロードの会との地域美化活動

代表者：家政学部　児童学科　教授　石井 雅幸

三番町アダプト・フラワーロードの会という名称で、九段小学校、三番町会、（株）プランナー・ワールド、大妻学院が協定を結んで 2007 年から行ってきた取り組みです。

この会は、三番町を通る番町学園通りの街路樹下の区画にお花を植えて、町会を美しく飾りましょうということでスタートしました。この会がスタートした頃は、児童学科の有志の学生と教員がボランティアとして参加していました。今では、児童学科児童教育専攻の 1 年の学生が全員参加して行っています。

6 月と 11 月に街路樹下の区画に夏のお花、冬のお花を植えています。また、土が乾燥してしまうので、お花に水をあげたり、雑草を抜いたり、枯れてしまったところに新たに花を追加したりしています。お花を植える活動は、九段小学校の児童全員、三番町町会のみなさんと行っています。本学の児童学科の学生にとっては、こどもたちと一緒に活動できることを楽しんでいます。こどもたちと一緒に植えたお花だからこそ、枯らさないようにと日頃の水やり、草取りにも学生たちは力を入れて行っています。

この活動を通して、地域の皆様との輪が広がり、この取り組みのスタート時に比べてお花を植える区間も拡充しただけでなく、新たなお仲間（あい・ぽーと麹町等）も増えてきています。本学院の中でも数年前から大妻中高の生徒さんも参加し、中高周辺の街路樹下の区画にお花を植えています。さらに、花を植える作業を行っている区画に「フラワーロードの会」の看板を取り付け、九段小学校のこどもも学生も町会の皆さんも自分たちが行っているのだという意識が高まってきています。三番町がさらに美しい街、気持ちよく過ごせる場所であり続けるお手伝いを少しでもできるようにしていきたいと思っています。

障害者雇用企業との連携によるTボール大会の開催

代表者：人間関係学部 人間福祉学科 教授　小川 浩

平成 31 年 4 月 28 日（日）に大妻女子大学多摩キャンパスにおいて「多摩障害者雇用企業 T ボール交流大会」が開催されました。これは大企業の障害者雇用を目的とした子会社（特例子会社）で働く障害者の T ボール大会を、企業側の実行委員会と人間関係学部の学生有志が連携し、多摩キャンパスのグラウンドで開催するもので、多摩キャンパスでの開催は 4 回目になります。参加者は年々増加しており、今回は 19 社 29 チームが参加。応援も含めて 900 人を超える人々が多摩キャンパスに参集し大いに賑わいました。学生側は小川ゼミ 3 年生を中心に、呼び掛けに応じて参加した 2 年生を含めて 26 人。学生の役割は各チームに入り、応援を盛り上げ、一緒にプレーをして楽しむことです。学生たちは最初は緊張していましたが、終了時にはすっかり溶け込んでいる様子が見られました。

また、本年度は 10 月 20 日（日）、大妻女子大学多摩祭の 2 日目に、大妻多摩祭 T ボール交流大会を開催しました。こちらは前述の 4 月 28 日（日）の大会と異なり、小川ゼミの 3 年生が中心に実行委員会を結成し、大会の企画、実施要領の作成、参加チームの募集、ボランティア学生の募集、審判の依頼、パンフレットの作成等一連の準備を行い、当日も中心となって運営を行うものです。参加チームは 9 チーム。約 200 人の選手と関係者が、T ボール大会だけでなく学生の出店や展示を楽しみ、多摩キャンパスを賑やかにしてくれました。昼休みには、チア部 LYNX がグラウンドで演技をしてくださり、迫力ある演技と華やかな笑顔で大会を一層盛り上げてくれました。グラウンドを貸し出すだけでなく、学生参加、学生の運営への参画が増え、地域連携活動としての意義がますます高まっています。人間福祉学科では、平成 30 年度に厚生労働省から、高等教育機関として初めて職場適応援助者（ジョブコーチ）養成研修機関の指定を受けました。今後、ジョブコーチの資格を取得した卒業生を就労支援や障害者雇用の分野に輩出していく予定です。益々大学と、障害者雇用・就労支援の世界との連携を強めていきたいと考えます。

体験から学ぶ防災
～防災と言わない防災を目指して～

代表者：人間関係学部 社会・臨床心理学専攻 准教授　堀 洋元

〔目的〕

プロジェクト活動４年目である今年度は、ゼミでの体験学習や学外での防災イベントに参加して学んだことから防災に関するアイデアを形にして、大妻多摩祭にて体験型防災ワークショップを行いました。防災のためだけでなく、日常生活とリンクした防災への取り組みとなることを目指したプロジェクト活動を実践しています。

〔プロジェクトの概要〕

1. 防災に役立つアイデアの体験学習（学内）

社会・臨床心理学セミナーⅠ（ゼミ）の中で、防災に役立つアイデアを実際に体験しました。具体的には、防災食の食べ比べとアレンジ、VR による火災からの避難体験、PET ボトルを利用したランプシェードづくりを行いました。防災食のレシピをアレンジすることで、高齢者の方でも食べやすいようなお粥風にできたり、乾パンを砕いてスープに入れてクルトン風にしたり、試行錯誤しながらも柔軟な発想で防災食をよりおいしくする気づきを体験しました。また、企業の方にご協力いただき、VR による避難体験を行うことで、単に臨場感があるだけでなく、体験後に防災について真剣に考えるきっかけになることも分かり、防災ワークショップでも取り入れることになりました。

2. 防災ゲーム体験イベントへの参加（学外）

学内だけでなく、「防災ゲーム Day in そなエリア東京」に参加し、防災教育で用いられているさまざまな防災ゲームを体験しました。カード型のものからボードゲーム型、館内を利用したアクション型まで、多彩な工夫をもとに防災ゲームが作られており、グループに分かれて体験した後で、防災ワークショップに取り入れられそうなアイデア、実施可能なゲームなどを検討しました。

3. 大妻多摩祭での体験型防災講座の実施

多摩市社会福祉協議会、ほっとネットしょうぶ（唐木田・中沢・山王下等地区地域福祉推進委員会）有志の方々にご協力いただき体験型防災ワークショップを実施しました（図 2）。防災食の試食や防災クイズ、VR 体験、ペットボトルの有効活用、段ボールベッドや防災備品の展示など、参加者に興味を持ってもらえるような身近なものを取り上げて体験してもらう有意義なイベントとなりました。

防災ワークショップの様子（左から防災クイズ、防災食体験、ランプシェード、VR 避難体験、段ボールベッド）

〔プロジェクトの効果〕

学生は、このプロジェクトに主体的に参加することでさまざまな経験を整理できました。そして防災ワークショップとしてその成果を形にすることで、体験による学びを活かすことができたようでした。

大妻囲碁フェスタ
―坂の上の街を囲碁で盛り上げる―

代表者：家政学部　児童学科　常勤特任教授　川之上 豊

スポーツ教育研究室では昨年に引き続き、年齢・性別・国籍・障がいの有無を問わず楽しめるゲームである囲碁を通して地域交流を図ることを目的に囲碁大会を実施した。開催するにあたり、千代田区・（公財）日本棋院にご後援を、九段商店街振興組合には協賛を、また日本棋院子ども囲碁サロン支部に協力をいただき開催した。

開催状況については、令和１年 11 月 10 日（日曜日）G 棟 311 教室で 10 時～ 16 時に実施した。参加者数については、開催日が天皇陛下即位パレードの延期日と重なったこともあったのか、キャンセルの方もおいでになり、最終的に参加者は 12 名（囲碁大会６名（子ども２名と大人４名）、入門教室６名）と昨年より少なかった。なお、入門講座については原幸子棋士に、囲碁大会については日本棋院普及事業部部長一宮正人氏にご指導いただき実施した。

今回は囲碁大会・入門講座実施前に、参加者・学生・スタッフとの交流を促すために「自己紹介とじゃんけんゲーム大会」（写真 1）を 20 分程度実施した。このことで交流や楽しさが深まり、また、囲碁入門（写真 2）では原様の、囲碁大会（写真 3）では一宮様の熱心なご指導もあって、参加者からは「とてもわかりやすく楽しかった」「楽しい時間を過ごすことができて大変良かった」等の感想もあり概ね好評であった。なお、じゃんけん大会や囲碁大会では九段商店街振興組合からご提供いただいた賞品（写真 4）を勝敗に応じて授与した。

今後も地域の方々ともっと交流し、楽しさが深まるような方法で実施できるようにしたい。

写真 1：参加者の方々と学生との交流様子

写真 2：囲碁入門の様子

写真 3：囲碁大会の様子

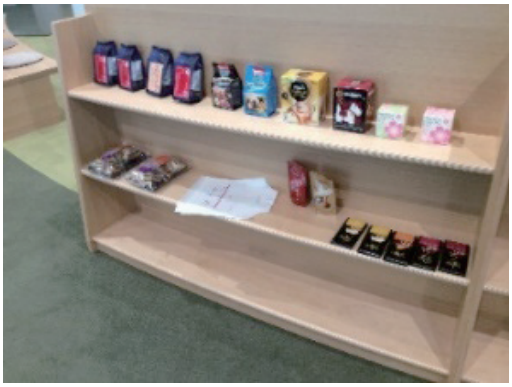


写真 4：九段商店街振興組合から提供された賞品の一部

神保町の出版と書店を元気にするプロジェクト2019

代表者：教職総合支援センター　常勤特任講師　深水 浩司

目的

本プロジェクトは、近くて遠い存在である「神田神保町」との連携を深めるために、学生さんたちには神保町を知ってもらい、神保町の方々には大妻学院を知っていただくために昨年度初めて立ち上げたプロジェクトの 2019 年版である。神田古書店連盟の協力を得て、多摩校「図書館サークル OLIVE」のメンバーを中心として、一つのイベントを開催し、残る講演会は 2020 年 3 月初旬を予定している。

報告

1.「和装本メモ帳づくり」（神田古本まつり併催イベント　古書店連盟協力）

第 60 回東京名物　神田古本まつり（東京古書会館開催イベント）

期間：2019 年 11 月 2 日（土）～ 11 月 3 日（日）

場所：東京古書会館（千代田区神田小川町）

10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 15:00 の 2 回開催（各回 10 名限定）

参加者数：40 名

2.「出版社から見た神保町―出版の歴史と現状をみる―」

古書の街だけではなく、新刊書出版の街である神保町を、出版社から語っていただく企画である。元小学館取締役で、児童文学･文化評論家でもある上野明雄氏と講演会についての調整を行っている。本年度中の講演を予定しているが、状況によっては、次年度以降になることもある。

計画には、千代田区立千代田図書館での「としょかんのこしょてん」展示を予定していたが、展示予定の調整が付かず、本年度は開催できなかった。次年度以降の年間予定調整を早期に行う必要性を痛感した。

子どもの育ちを地域で見届ける「大泉こども食堂」プロジェクト

代表者：家政学部 児童学科 准教授　加藤 悦雄

「大泉こども食堂」プロジェクトは 2016 年度から活動を開始し、今年度 4 年目を最終年と位置づけ活動してきた。子どもの貧困対策や居場所支援の一環として、全国的な広がりをもつ子ども食堂を学生スタッフが実践することで、子どもたちが主体的に過ごすことのできる地域の居場所づくりに寄与すると同時に、保育士や教員などを目指す学生が体験的に学ぶ機会をつくり出すことを目的としている。

大泉こども食堂の外観

2019 年度は、4 月 27 日、5 月 25 日、6 月 29 日、7 月 27 日、8 月 31 日、9 月 14 日、10 月 26 日、11 月 9 日、12 月 28 日、1 月 18 日、2 月 22 日の計 11 回活動した。毎回 2 年生を中心に 5 ～ 6 名の学生が参加し、15 名位の子どもや保護者が利用した（なお、もっとも多い日は 29 名の親子が利用した）。また、地域の民生・児童委員と連携し、気になる子どもに対する支援を行った。さらに、近隣の農園（山口トマト農園）から野菜の寄付をいただいた。

厨房の様子

学生のふり返りの一部を紹介する。「作った料理を『おいしい！』と食べてもらい、嬉しかった。配膳では子どもに合わせた量を調節することが大切だと感じた」「子どもたちがとにかく元気だったり、口が達者だったりして最初は振り回されてしまった。この場だからこそ言えることがあるのかもしれないと感じた」「社会人 1 年目の先輩や 4 年生のお話を聞き、先輩が子どもと馴染んでいる姿に接し、とてもためになった」。

とんかつ

ビーフシチュー

食事の一コマ

多摩市における街区公園改修に関するプロジェクト

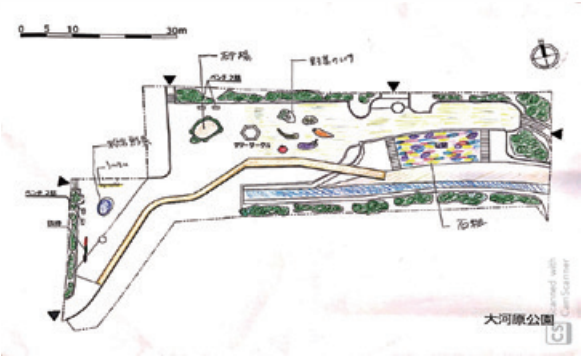
代表者：社会情報学部 環境情報学専攻 教授　松本 暢子

2019 年度地域連携プロジェクトでは、多摩市公園緑地課による「多摩市街区公園改修に伴う地域ワークショップ」に学生および教員が参画し、市民とともに意見交換しました。これは、昨年度までのプロジェクトの成果である「子育て家族の住宅選択は自然環境が重視される」ことを基に、身近な環境としての「街区公園」の実態を知り、今後の在り方（居住者の利用の拡大・公園施設の管理・行政と市民の協働など）について考え、多摩市による改修の方針・設計を進めるためのとりくみです。

1. 関戸地区・愛宕地区でのワークショップ（各 3 回）

愛宕かえで館（9/28　10/19　11/16）
関戸つむぎ館（10/5　11/2　11/23）

第 1 回　街区公園の施設老朽化等改修の必要性（説明）課題やニーズの意見交換
第 2 回　課題の共有と対応についての意見交換
第 3 回　改修案のとりまとめ



大河原公園の改修案

2. 卒業研究としてのとりまとめ

小学校で、公園緑地課とともに授業を行い、フィールドワークや調査を実施し、卒業研究としてとりまとめました。

3. 改修に関する提案（発表会）

各 3 回のワークショップでの意見交換や現地調査をもとに、4 班に分かれて提案をまとめ、発表しました（公園緑地課の報告書に掲載される予定）。

愛宕第 3 公園の遊具

むささび食堂：食事がつなぐ地域の輪

代表者：家政学部　食物学科　教授　田中　直子

【目的】

本事業で取り組む「むささび食堂」は、単なる食事の提供だけでなく「子ども自身があり合わせの食材で献立作りや調理を行う自立支援」を大きなテーマとしている。子供だけで過ごす時間の長い子供たちが気軽に参加できる「むささび自習室」の関連事業として、子供と大学生、地域の大人がともに楽しく料理をしながら、さまざまな知恵を伝えていく。そんな「料理を通して広い世代が交流し輪を広げていく場所」が「むささび食堂」である。

大学生にとっては、日頃接する機会の少ないお年寄りの知恵を借りながら、子供たちと食を通して繋がる体験をするプロジェクトである。大学生が食を通した地域の共生を肌で感じ、その中で自分ができることについて考える機会となることを目的としている。

【活動内容と成果】

活動内容：

むささび自習室に集まってくる子どもたちと一緒に昼食とおやつを作る。

事前に子どもたちが楽しめるメニューを考え、材料を買い出しし、当日は扇谷調理師さんの指導のもと、作って、食べて、片付けまでを子どもたちや地域ボランティアの方々と一緒に行って、さまざまな世代の人たちとの交流を深める。

活動日：6/9、8/17、10/20、11/17、2/2、3/21 の計 6 回

活動の成果：「柔軟に対応する力」

むささび食堂では、その時々で集まる子供やボランティアスタッフの数が異なる。地域からの食材提供もあり、どんなものが提供されるか当日になるまでわからない。そんな中で、人数変化に対応できるメニューを考えたり、急に増えた食材で臨時メニューを考えたり、回を重ねるごとに臨機応変に対応する力がついてくる。子どもは好き嫌いもある。嫌いなものについて子供と語らう機会もできる。学生ごとにこの活動に対する思いもそれぞれであるが、今後の人生のための生きた学びがある。

イベント出演団体紹介

大妻さくらフェスティバルのステージを彩る 10 団体をご紹介します！

千代田区立九段小学校

九段囃子の会

時間　10：00 ～ 10：50

内容　投げ合い・一囃子

「九段囃子」は九段小学校の特色ある教育活動の一つとして、今年度は 3 年生から 6 年生が地域の方に指導していただいています。週に一度、金曜日に活動してきました。

お囃子はお祭りには欠かせないものです。その音は日本人の心に心地よくしみわたっていきます。九段囃子の活動は、子どもたちが日本の伝統文化に触れる、よい機会となっています。

今回は、3 年間練習を積み重ねてきた成果の発表として、6 年生が、お神輿が上がっている時の曲「投げ合い」と「一囃子（ひとっぱやし）」後半部分を演奏します。

東京のお祭りを華やかに盛り上げる江戸祭囃子（えど まつりばやし）。始まったのは、江戸幕府八代将軍・徳川吉宗の時代と言われています（諸説あり）。九段囃子がお稽古している「箕輪屋流（みのわやりゅう）」では、「屋台」、「昇殿」、「神田丸」、「鎌倉」、「仕丁目」そして最初に戻って「屋台」で終わる組曲を「ひとっぱやし」として演奏を行います。

にぎやかなお祭りの雰囲気をイメージしながら、楽しんで演奏します。

千代田区立九段小学校

九段Planets

時間　10：00 ～ 10：50

内容　ビッグ・バンド演奏

九段小学校は、緑豊かな環境のもとに育まれた歴史と伝統のある学校です。木のぬくもりのある新しい校舎で、毎日の学校生活を伸びやかに過ごしています。また、大妻女子大学の先生方や学生の皆様には、理科の学習をはじめ、ふれあい体験広場・お月見会・地域の花植え・校外体育などで、お世話をいただいております。特に本年度は「プログラミング教育推進校」としての学習・研究でご指導をいただきました。厚く御礼申し上げます。

「九段 Planets」は、本校の特色ある教育活動として年々人気が高まり、本年度は４・５・６年生の希望者６４名が毎朝音楽室に集い、音楽で一日のスタートを切っています。九段小といえば「Planets」と云われるほど、九段小の顔として、千代田区内はもとより、全都から耳目を集めるバンドに大きく成長しています。学校行事や集会をはじめ、これまでに「東京都管楽器演奏会」「千代田シーズン・コンサート」「千代田区 子どものための文化祭」「千代田区 敬老会」などで演奏を披露してきました。また、東京都の代表として「全国管楽器合奏フェスティバル」にも出演させていただきました。

本日は、これまでバンドをリードしてきてくれた６年生との最後の演奏になります。ビッグバンド・スタイルのサウンドで、ポップスやジャズのスタンダード・ナンバーを中心にスウィングします。ご声援をよろしくお願いいたします。

大妻嵐山中学高等学校

English Drama Club

時間 11：10 ～ 11：30
内容 英語劇

ごきげんよう。私たちは大妻嵐山高等学校英語劇部です。

私たち英語劇部は高校一年生を主導とし、昨年発足した部活動です。

昨年 10 月に行われた、埼玉県高等学校英語劇発表会でウィリアムシェイクスピアの四大悲劇の 1 つである「マクベス」を演じさせていただきました。英語劇部が発足されてから初めての出場した大会でしたが顧問の先生方を主導とし部員一丸となって構成、衣装、大道具を試行錯誤し、作り上げました。その成果もあり、マクベスのメインキャラクターであるマクベス夫人を演じた我が部の部長が個人賞を受賞させていただきました。初めての大会だったこともあり、わからないこともありましたが他の学校の発表から発声の仕方や、セリフの読み方、舞台うえでの動きなど学ぶことも多くありました。そこから大会での反省点や改善点を踏まえ、今回の大妻さくらフェスティバルに参加させていただきます。是非、楽しみながら見ていただけると、とても嬉しいです。

大妻中学高等学校

コーラス部（高校）

時間 11：30 ～ 11：50
内容 コーラス

ごきげんよう。大妻高等学校コーラス部です。

昨年に引き続き、さくらフェスティバルに出演する機会をいただきまして、有難うございます。

私たちは、文化祭や校内での公演を中心に冬にはいきいきプラザでのクリスマスコンサートも行っております。

部員は少ないのですが、聴いてくださる方の心に残る演奏が出来るよう、温かな雰囲気の中で、楽しく練習に励んでいます。

皆様にとって素敵な時間となれば幸いです。

元気いっぱいの演奏をどうぞお楽しみください。

大妻女子大学・法政大学・武蔵野大学

舞踏研究部

時間 11：50 ～ 12：10
内容 競技ダンス

私たち舞踏研究部は、法政大学を中心に武蔵野大学、大妻女子大学で提携して日々活動を行っています。私たち舞踏研究部は競技ダンスをしています。競技ダンスとは、社交ダンスを競技化したもので、最近ではテレビ番組でも多く取り上げられています。競技ダンスは 2 種類の専攻に分けられ、男女で手を取り合って踊るスタンダード、男女が離れて踊るラテンアメリカンがあります。これを機に競技ダンスというものをもっと多くの方々に知ってもらえたら嬉しいです。今回お見せするデモンストレーションは、スタンダード、ワルツ、タンゴで、ラテンでは、チャチャチャ、ルンバを踊ります。それぞれのダンスで、音楽の表現や、華やかさ、優雅さが異なってくるので、注目してお楽しみください。

さて、私たちは 1 年を通し沢山の学生競技ダンス選手権大会に出場しています。2019 年は輝かしい成績を納めることができました。12 月の 4 年生にとって集大成となる最後の全国大会では団体の部において 3 位入賞することができました。今年はさらに上を目指しより良い成績を納めることが目標です。それでは、日々の練習の成果をぜひご覧ください。

駐日英国大使館太鼓会
どんBRI

時間 13：00 ～ 13：20
内容 和太鼓演奏

駐日英国大使館太鼓会どん BRI（どんぶり）は、1994 年より駐日英国大使館職員を中心に活動いたしております。会の名前は太鼓の音、‘どん’と Britain の ‘BRI’ を合わせたものです。親しみやすい名前を、と考え、どん BRI といたしました。

駐日英国大使館がお世話になっております千代田区の滝廉太郎祭りや麹町小学校の子供会、いきいきプラザでのイベント等に加え、駐日英国大使館内での様々なイベント、オーストラリア大使館の夏祭り、日比谷公園での大盆踊り大会、港区の国際交流イベントなどに参加させていただいております。その際、皆様に太鼓をより近く感じていただくため、できる限り、皆様に太鼓に触れていただき、会場が許す限り、実際に叩いていただく時間を設けております。

大妻女子大学でのさくらフェスティバルには毎年参加させていただき、私共といたしましてもとても楽しみにしているイベントの一つです。短い時間ですが、皆様にも実際に太鼓を叩いていただく時間も設けますので、是非たいてみてください。

大妻女子大学
オールチアリーディング・カンパニーLYNX

時間 13：30 ～ 13：50
内容 チアリーディング演技

オールチアリーディング・カンパニー LYNX です。

私達は、1 年生から 4 年生の計 24 名で大会を主に日々練習に励んでいます。さて、皆さんはチアリーディングとはどのようなスポーツか知っていますか？チアリーディングのチアには「応援」という意味があり野球をはじめとするあらゆるスポーツ選手を応援し、また観客を楽しませる為にアクロバティックな技が取り入れられるようになりました。“応援” の特色を生かしたモーションやダンス、組体操のようなスタンツ等を演技に構成し観ている方々に元気・勇気・笑顔をお届けします！

さくらフェスティバルには毎年参加させていただいております。是非この機会にチアリーディングという競技を観て知っていただけたらと思います。新体制になって初めての演技となります。さくらフェスティバルを盛り上げられるように頑張ります！

大妻嵐山中学高等学校
ダンス部

時間 13：50 ～ 14：10
内容 創作ダンス

ごきげんよう。大妻嵐山中学校・高等学校ダンス部です。今回、大妻さくらフェスティバルに初めて参加させていただくこととなり、大変光栄に思っています。

私たちは中学生、高校生共に毎日楽しく活動しています。中学生は、文化祭など校内での発表や校外でのイベントの発表に向けて作品作りに取り組み、練習に励んでいます。高校生は、創作ダンスのコンクールの入賞、特に神戸で行われる全国大会の入賞を大きな目標とし、日々練習に取り組んでいます。創作ダンスは、皆で一つのテーマを表現するメッセージ性のある奥深いダンスです。舞台で仲間と一体感を味わえた時の喜びは何ものにも代えがたいものです。創作ダンスの他に文化祭では、ジャズダンス、ヒップホップ、バレエなど様々なジャンルに挑戦し踊っています。

本日は、皆様にとって素敵な時間となるよう精一杯踊りますので、手拍子や拍手で応援していただけると幸いです。

それでは楽しんでご覧ください。

大妻女子大学 OG

Mauhana Hula Studio

時間 14：10 ～ 14：30
内容 フラダンス

「大妻さくらフェスティバル2020」にお声がけいただき、ありがとうございます。

昨年に引き続き、フラで参加させていただきます。

今年も仲良しの Hula Hālau Honuaiākea の皆さまとご一緒に、楽しく踊らせていただきます。

フラは手話のように歌詞を表現しながら踊ります。お花の表現など、わかりやすい振りもございます。

ぜひご一緒に楽しんでいただけましたら幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

大妻中学高等学校

バトントワリング部

時間 14：30 ～ 14：50
内容 バトントワリング演技

ごきげんよう。大妻中学高等学校バトントワリング部です。今年もさくらフェスティバルに出演することができ、大変嬉しく光栄に思っております。

私たちは、質の高いボディーワークと正確なバトン技術の向上を目指し、日々練習に励んでおります。バトントワーリング全国大会や、東京都代表として全国高等学校総合文化祭に出場しております。また、社会を明るくする運動（麹町パレード）にも参加させていただいております。

本日は、高校生による演技（2 作品）と中学生による演技（1 作品）を披露させていただきます。1 作品目は、高校 1・2 年生による「Toontown」です。これは中学バトン部に入部して初めて演技披露した思い出の作品です。2 作品目は中学 3 年生による「Storng ～シンデレラより～」、3 作品目は高校生による「わらべの夢ものがたり」、全国大会で披露した作品をアレンジして踊らせていただきます。

皆様にお楽しみいただけますよう、精一杯踊ります。どうぞお楽しみください。また、手拍子や拍手で応援していただけると嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

大妻さくらフェスティバル俳句大賞

大妻さくらフェスティバルのイベントの一つとして、俳句大賞を実施いたしました。今年度は「春の動物」「水」をテーマに、全国各地の幅広い年齢層の皆様から、1,139 句の作品が寄せられました。たくさんのご応募ありがとうございました。厳正な審査の結果、入賞した作品を発表します。

理事長・学長賞

テーマ「春の動物」

一般の部

鍬跡に母の気性や揚雲雀

滋賀県長浜市　野口　成人〈六十三歳〉

中学・高校生の部

風ふかれ鳥巣立我反抗期

東京都千代田区　前原　朱里〈十二歳〉

小学生以下の部

飛行機と一緒にならぶアゲハ蝶

兵庫県神戸市　藤濤　英介〈十二歳〉

テーマ「水」

一般の部

小禽の寒九をつつく手水鉢

神奈川県横浜市　中澤　仁捷〈八十五歳〉

中学・高校生の部

未熟さは私と同じみぞれ雪

東京都千代田区　杉本　彩華〈十三歳〉

小学生以下の部

水遊お母さん達立ち話

愛知県春日井市　田本　莞奈〈十一歳〉

※理事長・学長賞は全テーマ、全部門から選出しています。

優秀賞

テーマ「春の動物」

一般の部

廃線の日向に虻の浮かびたる
神奈川県横浜市　吉田　誠一〈六十歳〉

鶯に老犬の紐ピンと張り
岡山県玉野市　岩中　幹夫〈四十四歳〉

去り難き海の青さや鳥雲へ
京都府舞鶴市　小見　伸雄〈五十歳〉

中学・高校生の部

この海の心臓として蛍烏賊
埼玉県日高市　野城　知里〈十七歳〉

クラス替え思いをたくす蝶空へ
東京都千代田区　樋口　夏奈〈十三歳〉

駅員が目を細めみる燕の巣
東京都千代田区　松下　向日葵〈十三歳〉

小学生以下の部

目開ければ指先にいる白いチョウ
山口県山陽小野田市　秋吉　澪〈十一歳〉

春の夜たぬきがぽつぽつ歩きだす
鳥取県鳥取市　岡田　夏往里〈九歳〉

ちっちゃいのにナナホシテントウ飛べている
兵庫県神戸市　藤濤　拓郎〈十二歳〉

テーマ「水」

一般の部

渓流はうねる竜の背春映し
京都府亀岡市　市岡　哲夫〈六十八歳〉

歩けたと話す翁や春の水
愛媛県西条市　砂山　恵子〈六十歳〉

水紋に手を伸ばす子へ風光る
北海道札幌市　小西　美里〈二十八歳〉

中学・高校生の部

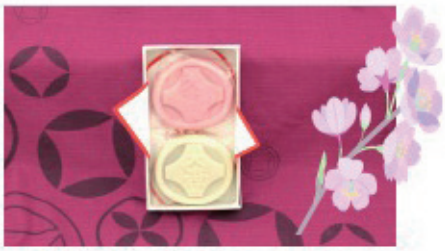
とびうおや光輝く海の上
東京都千代田区　中嶋　胡桃〈十三歳〉

水筒の氷奏でる夏の音
東京都千代田区　星川　遥奈〈十三歳〉

線香花火消えて水に入れるさびしさ
東京都千代田区　田中　麻衣〈十三歳〉

小学生以下の部

春の水うたた寝の父おこしけり
愛知県名古屋市　水野　結雅〈十二歳〉



紅白ねりきり（紅白セット）¥500円（税込）
どらやき　¥220円（税込）
この他にも大妻オリジナル商品を
店頭に用意しております

大妻サポート購買部では、大妻さくらフェスティバルの開催を祝し、地元九段で和菓子の老舗＝宝来屋（明治元年創業）とコラボした『紅白ねりきり』や『どらやき』を当日限定で販売いたします。ご来場の際はお立ち寄りください。

大妻サポート購買部　千代田店
場所：大妻女子大学
千代田校A棟地下1階

「大妻さくらフェスティバル 2020」の開催にあたり、次の学生・生徒の皆さんが協力してくださいました。この場を借りてお礼申し上げます。

大妻女子大学

家政学部食物学科	2年	鈴木沙也果
	2年	大倉　茜
	2年	小川　歩
	1年	迫川　麻美
家政学部ライフデザイン学科	2年	中園　雪那
	1年	金澤なつ美
	1年	三村　萌花
文学部日本文学科	3年	小柴　夏海
	3年	津　若菜
	1年	松島　千夏
文学部英文学科	2年	幸前　結衣
	2年	小嶺　楓
	2年	岩渕　安純
社会情報学部社会情報学科	2年	中島　舞
	2年	村田　百合
	2年	津田　夏花
	2年	當間　史織
短期大学部家政科	1年	鈴木　夏海

大妻中野高等学校

	1年	岩崎　愛珠

大妻嵐山高等学校

	2年	菅原　理穂

大妻嵐山中学校

	2年	栗原　未来

大妻多摩高等学校

	2年	松田　ひなた

大妻嵐山中学校

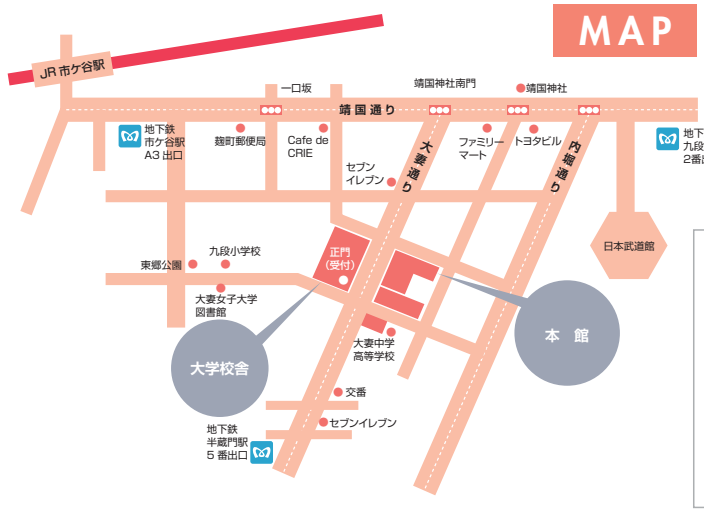
	3年	前島　ななみ

Otsuma Women's University

千代田のさくらまつり
「大妻さくらフェスティバル 2020」実行委員会

委員長：井上美沙子（大妻女子大学地域連携推進センター所長）
委　員：成島由美、村田裕道、今村勉、桝渕富士子、持田修、相浦綾子、鈴木由美子
〒102-8357 東京都千代田区三番町 12 番地 大妻女子大学内
TEL：03-5275-6877　FAX：03-5275-6800　E-mail：chiiki@ml.otsuma.ac.jp

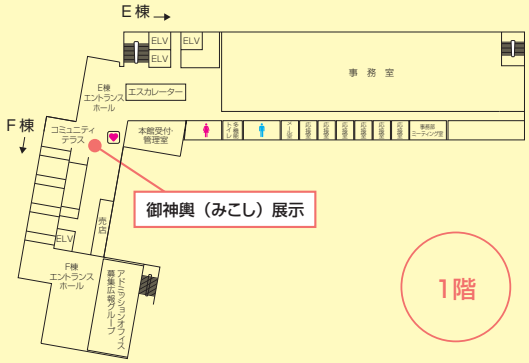
千代田キャンパス

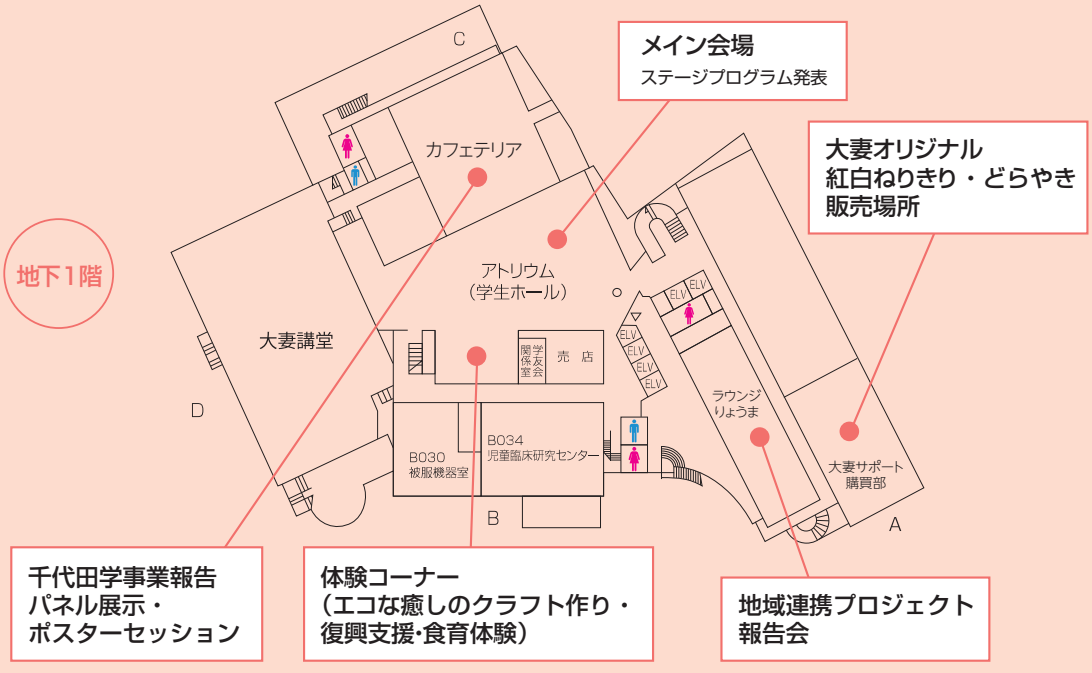


交通案内
○JR中央線・総武線（各駅停車）
「市ケ谷駅」下車 徒歩10分
○都営新宿線、東京メトロ有楽町線・南北線
「市ケ谷駅」下車（A3出口）徒歩10分
○東京メトロ半蔵門線
「半蔵門駅」下車（5番出口）徒歩5分
○東京メトロ東西線
「九段下駅」下車（2番出口）徒歩12分

大学校舎

本 館





大妻嵐山高等学校　２年　菅原 理穂

大妻嵐山中学校　２年　栗原 未来

大妻多摩高等学校　２年　松田 ひなた

大妻嵐山中学校　３年　前島 ななみ